



第5章

仲間たちの声

地を愛し、ルーツに誇りを持ち、そして次代へ繋げていこうとがんばる彼らを見ていたら、自分も負けていけないとますます心を熱くした1日でした。

市川町だけでなくバリでも感じられたことですが、棚田には先人たちの想いが受け継がれています。ただの仕事や作業ではなく、想いを込めて育てられているのです。

石垣にしてもめちゃくちゃきれいに積まれており、そのすさまじいまでの美しさは芸術と言っても過言にはならないでしょう。

今に生きる自分たちが、「日々を大切に今を輝いて生きる」ことが大切です。「シャイニングー！」という僕の決めゼリフは、そこから来ています。情熱溢れるものを繋いでいき、そのためにも今一瞬一瞬を大事にして、自分の命を育み、そして米も野菜も育てていきたいと思えます。

バリの兄貴とお会いできたのも、本当に貴重な経験となりました。僕も兄貴のような明るくて温かいエネルギーで、多くの人を照らす存在になりたいですね。

努力と15年間の想いと行動を心から応援し、見守っていきます。

田村 哲夫

私は「棚田100選」に選ばれている香美町のうへ山の棚田で農業をしています。そのなかで永菅さん（棚田くん）と出会いました。彼との出会いは衝撃的でした。まさか15年間も活動を継続できるとは……。私も最初は、熱意は感じましたがここまでできるとは思いませんでした。私が彼にかけた言葉「5年で棚田がなくなる」が大きく響いたようです。事実、私が住んでいる香美町棚田でも担い手が大きく減少し、なくなっている棚田が数多くあります。

一方で、地域の本音は、「棚田を未来に繋ぎたいけれど、自分の子どもには引き継がせたくない」ということなんです。

棚田は素晴らしく、本当に先人の方々が作り上げてきた文化の結晶です。ですが、引き継がせたくないという現状。なぜだと思いますか？

一番の理由は赤字の経営です。

作業が本当に大変でしかも収入にならない。それが引き継がせたくない本音のひとつです。すればするほど赤字になる、でも本当は価値がある素晴らしいもの、それを未来に繋いでいくことに強い意味を感じます。なかなか誰もできない挑戦、それを永菅さんは一歩でも少しずつやろうとしてくれている。その努力と15年間の想いと行動を、私は心から応援し、これからはずっと見守っていきます。

理屈では解決しない分野を人柄で方向性を見出し、いく若者。

宮脇 壽一

永菅裕一さんと知り合ってから10余年の歳月が流れました。私が地域の活性化と地域紹介を始めてから22年目のことです。

私の住む中山間僻地では、棚田は生活の一部であり、日常の景色でもありました。2008年、当時の農水省認定、全国棚田百選にうへ山の棚田が認定され、景観が観光目玉になるとの想いから、棚田の保全も大切であるが、景観の重要性を地域住民へ周知認識させ

ることが必要であろうと考えていた矢先の永菅くんの出現でした。

当時を振り返ると、柵田に対して真っ直ぐな思いが伝わってきて、「柵田保全」とはいえ理論や理屈では解決しない分野を永菅くんの人柄で方向性を見出していく——素晴らしい若者がいたものです。

あれから10数年。柵田の保全と景観は、両輪でなくてはならない関係であります。永菅くんの持つ経験と人柄で、主幹を枝葉でしっかりと構成し、マネジメントしていくでしょう！本書が発行されている頃は、コロナ禍も収まり、日本の農業の在り方が面白い（百姓↓百生↓百笑）形態へと変化し、本書によって、あなたの生き方も変わる——そう確信しています。一段と成長した永菅くんには、私の主宰する人づくり塾の主任講師を期待しています。

お客さんもたくさん呼ぶ行動力には非常に感動しています。

津田 裕昭

「しろめて」のすぐ近くにある温泉施設「せせらぎの湯」で働きながら、柵田などの兼業農

家をやっています。

せせらぎの湯から北へ3キロほど行きますと、笠形山という標高939メートルの山があります。そこに仙人滝という滝がありまして、これが市川の支流岡部川の源になっているんです。この滝から流れた清流を柵田に引いて、お米作りをしております。

田んぼがあるのは標高300メートルですので、結構気温も低く、夜は真っ暗。だから植物、生物にとっては一番条件がいいところだと思います。星空を眺めながら育てますんでね。

先祖から継いできた田んぼで祖父も父もお米を作っていました。代替わりして私がすることになったんですけども、こんなお米が取れにくい場所、しかも誰も褒めてくれないのに、なぜ米作りしないといけないんだろうって、諦めというか、面倒くさいなっていう気持ち強く持っていました。

柵田の兼業農家は大変です。田植えの時期は朝5時に草刈り。6時半になったら、せせらぎの湯へ来てお風呂のお湯を抜いて掃除。それからお湯を張っている間に、娘を駅まで車で送ります。これが7時過ぎくらい。そこから戻ってくると、お湯が張っている状態なので営業開始の準備をします。9時になったらお店がオープン。17時までみっちり働きます。そこから娘を迎えに行つて家まで送り届けてから、18時くらいに田んぼへ。暗くなるまで草刈りやタケノコの整備。それからまたせせらぎの湯に戻って、閉店の準備をして21時に閉店。そ

れからまたちよこつと掃除してから帰るといのが、基本的な流れ。超ハードですから、続けていきたいという想いを持つのは難しいです。

それがある日、田んぼをトラクターで耕しているときに周りを見て、ふと思ったのです。なんてきれいな景色なんだろうって。山の上からきれいな水が流れてきて、夜は真っ暗でホタルが飛んでいる。この素晴らしい風景を付加価値としてブランド米にできたら、米の価格を上げることができる。周りの農家さんはすごく楽になるし、米作りを諦めずに続けられる人も増える。そう思ったんです。

ですが、みんな、田舎のおっさんですから、情報発信する術がありません。どうにかできないかと思っていたときに知り合ったのが永菅さんです。永菅さんは多くの人たちに私たちが作ったお米を紹介してくれました。「おいしいやん」という声をたくさんいただき、リピーターになってくれる方も増えました。我々ができないことを永菅さんにはしていただいております、協力関係を構築している間柄ですね。かれこれ15年来の付き合いになります。

せせらぎの湯ができたのは、私が27歳のときでした。オープンに携わって必死に頑張ったこれらの湯も、周りの大人たちのおかげです。だから私も、自分より若い永菅さんを応援してあげたいと思っています。

そういう気持ちになったのは、彼が棚田を守りたいという僕と共通する想いがあったからです。他の分野に特化したことなら、関わっていません。なぜかというところ、僕が若いころは大人たちの無償の助けがいっぱいあったんです。だから僕も大人として、彼に見返りを期待しない。見返りを期待するから怒りたくなるのでね。まずはお手並み拝見。その後は、私が協力しますので。

もしも永菅さんを誰かに紹介するのなら、こう言葉を添えるでしょうね。「行動力ある面白い子がいるので」と。我々おじさんにはできない情報発信を特化してできる。それが私からすると面白さに繋がるのかな。あとは人を集める集客力っていう部分は特にすごいですよね。そこは完全に認めています。

田植えの知識は全然です。今もまだまだですね。本人も「草刈りしながら勉強させてもらっています」と言っています。

怒ったこと、叱ったことはいっぱいあります。片づけをおろそかにしたときは、しっかりと言いますね。

永菅さんがある方から田んぼを借りて、そこで棚田コンサートというイベントを開催したんです。田んぼの上で太鼓を叩いたり、ファイヤードンスをしたりといった内容なので、もちろん田んぼを踏みつけます。持ち主さんに見れば踏んでほしくないはずですが、そ

こは快く貸してくれたんですね。

ですが、イベントが終わったらゴミは落ちているし、道具は散らかっている。モラルというかマナーのなさに持ち主が怒られます、それを私から永菅さんに伝えました。「君は全然わかっていない。大事にしている田んぼを借りているのだから、それに見合った感謝と行動をしなければいけないだ」と。

彼は棚田を守ると言っているのだから、棚田をもっときれいにしてほしいですよ。石垣も、もっときれいにしてほしい。あと、いつも言っているのは、道具を大切にしないといと。

昔の人は鞆ひとつ田んぼに置いておくだけでも、「物を大切にしない人だな」と嫌な感じがするんですよ。地域の人は道具を大事にしてほしいし、田んぼも大事にしてほしいという想いが強いんで、物を丁寧扱おうという姿勢を見せておいたら、もっと協力されると思いますね。

トラクターに当たって使ったら使ったままじゃなしに、ある程度汚れたときには水洗いをして、ありがとうって感謝の気持ちで掃除をしてあげる。それで機械も長持ちするし、この子は物を大事にする子だって周りの人たちからも評価されます。

トラクターといえば、彼は一度危ない目に遭ったことがありますね。

ある日、永菅さんの棚田LOVERSのスタッフさんがトラクターで田んぼを耕していた

んですよ。夕方、暗くなってきたから帰ろうかということとで車道をトラクターで走っていたら、後ろから猛スピードで追突されたんです。トラクターは二転三転して大破。乗っていたスタッフさんはトラクターの外にはじき出されましたが、無傷。奇跡的になんともなかったですが、運が悪ければ死んでいたという事故でしたね。

怒ったり叱ったりすることは確かに多いですが、一方ですごいなと唸られることもあります。

まず、発想力がすごいですよね。よもやこの田舎の田んぼでコンサートを開こうなんてアイデアが、どこから湧いたのか。しかもそれを着実に開催して、お客さんもたくさん呼ぶ行動には、非常に感動しています。

それが10月から11月で、夜の7時から8時だったと思います。太鼓のステージがあったようで、紅葉した木々が太鼓の音にザワザワと共鳴して、この山が生きているって感じがしたんです。このイベントを開催してくれた永菅さんには感謝しています。

そうそう、彼には素晴らしい習慣があるんですよ。

このあたりには、虫送りという田んぼにまつわる行事が昔からあるんですよ。地域のちょうど中心にある祇園神社に集まって松明に火をつけ、虫をおびき寄せるという意味合いです。おのおの自分の田んぼをまわって、虫を集めて次の地域に送っていくという習わしです。

永菅さんは柵田を守るといふ意味で、毎朝7時〜7時半くらいには、この祇園神社でお参りしています。よっぽどの用事がある以外、毎朝必ずです。

それを彼は誰に見せるわけでもありません。毎回、お賽銭も入れています。もちろん「入れました」なんて言うこともありません。でも、賽銭箱を開けたらこれまでにないくらいお賽銭が入っているのです、地域の人たちは驚きますよね。そのときに僕は「永菅さんが毎朝、お参りしてお賽銭を入れてるんですよ」と言っておあげているんです。当然、皆さん感じします。誰にも言っていないことでも、誰かがやっぱり見ているものなんですよね。

永菅さんと彼の仲間たちには今後、地域の方々ともっと密着してお互い協力できるような団体になってくれたらいいなと思いますね。現状のままでは、この地域は廃れていくと思っ

ているのでね。

田舎なので、昔はよそから入ってきた人は阻害しようという考えでした。でも私にとつてみれば、「こんな廃れていく町、若い人の力を借りなあかんやろ」って思うんですよ。

昔はね、移住してくる人を下に見てた人いっぱいいました。「いやいや、そうじゃないやろ、対等やろ」って私は思っています。この村で生きていこう、何かしていききたいという人はウエルカム。おかげ様でこの地域、空き家ゼロです。それは永菅さんがイベントや活動で人を呼んで、長い年月をかけて移住者が入りやすい環境を作ってきたおかげもあると思います。

最後になります。永菅さんにメッセージを送りたいと思います。よいほう、悪いほうありますが、まあ、悪い方からいきましようか(笑)。

柵田や農業に関わる全ての物を大事にしてほしいですね。皆、きちんと見えていますからもうちょっと道具とか環境をきれいにすることさえできれば、もっと協力者は増えていきますから。

よいほうのメッセージはね、情報発信力があるんやったら、この笠形山、市川町っていう地名をもっとPRできひんかなっていう想い。現状は「市川町の柵田がんです」という一部分だけなので、有名な笠形山なんかももう少し活用しながらPRしたら、もっと発展するかなと考えているんです。

私もひとりで勝手に、仙人滝から流れてきたお水でつくった仙人米っていうお米を作っているんですけどね。この地域で作っているお米が本当においしいっていう認識ができたなら、ここで何を作ったっていい意味で注目を集めますよね。

そういうった名産物の次代の担い手として、永菅さんを応援していきたいですね。

いつも見守ってくれているので、いつも感謝してらんです。

白井弘枝

市川町のお隣の福崎町に住んでおります。

柵田くんと出会ったのは、今から4、5年前。上の子供が自閉症で癩癩かんしゃくや多動が激しく、普段の生活を送るのもしんどくて、私も体調を壊しかけていました。習い事をさせようとしてもうまく行きませんし、どうしようかなと思っていたときに、柵田LOVERSの野草体験のチラシを見たのです。さっそく応募しまして、そのとき初めて柵田くんにお会いしました。「子どもに対してピュアな人やな」というのが第一印象です。その姿を見て私も子どもも変わるきっかけになるかもしれないと思って、柵田くんや彼の活動に関わるようになりました。

当時は、私も子どももいっぱいいっぱいの状態でした。子どもは元々コミュニケーションが苦手で感覚過敏もすごくて、癩癩や怒りが激しいんですね。私もそれにずっと腹を立ててしまいう日々で。

食事療法もやっていました。具体的にはなるべく添加物の入っている物やグルテンやカフェインを取らないようにしようと。学校の給食の内容も少し気になるので、パンはやめてご飯を持たせるとか、そういうことも続けていました。精神薬も飲ませていましたね。

それが柵田くんのところに通ったり、他にもパン、牛乳はなるべく控え、色々始めたりしてからは、みんなと一緒に食べるものが食べたいという反発は凄くありましたが、数年経つと成長もあり、本当にびっくりするくらい落ち着きました。うちの子みたいなタイプに対応するのは難しいことですけど、柵田くんはすごく向き合ってくれて、成長させてもらったと思っています。

そういういいところもある一方で、よくない面ももちろんあって、ものすごく衝突したときもありました。

うちの子はゲームが好きなのですが、ここへ来たら何かを手伝わないとゲームをやらせてもらえないという約束なんですね。うちの子が手伝いをしないでゲームをしようとしたときに柵田くんは、「手伝いをしていないのだから、ゲームをしてはだめだよ」とハッキリ言うてくれます。

だけど、子どもが聞かずに結局お手伝いをしないときには、私もですが、柵田くんもイライラしてしまって、私がすごく傷つくような発言をするんですね。すごく刺さるようなこと

をハッキリ言われるから、「今のは、どういうことなんですか」と言い合いになることもありました。次の日になると、「昨日はごめんなさい」と謝ってお互いに反省をするので、何とか関係性を続けてこられたという感じですね。

彼は裏表がない人間ですが、そのぶん身内に求めるものはすごく大きいです。野草体験などのお客さんだった人がスタッフになると、求めるレベルが1から100になる。前はその100のことができないとかかなり強めに言われることがありましたが、最近ではいきなりワーツと言ってくることはなくなりました。その代わりに、紙に自分の想いを書いたり、意見を求めてきたりするようになって、だいぶ柔らかく変わったなと思っています。それは2021年になってからです。

棚田くんとの関係性は今年で4年目。1年目はお客さんで、2年目からはボランティアスタッフとしてお手伝いをして、去年から正式なスタッフになりました。去年は死にそうなくらい大変でしたね。体調も悪すぎて、もう辞めようともものすごく思いました。

それでも今、私は自分の意思でここにいます。理由はやりがいがあることと、思いやりを持って接してくれる方が多いからです。

田植え体験の参加者さんにお出ししている昼食作りを担当させていただいていますが、最初は私、料理に慣れていなくて段取りも悪かったです。求められるレベルをこなせず、同

時期に家庭の事情でやるのが一気に増えて私も倒れそうになっていました。

そんなときに周りの人たちが、仕事の密度を下げるよう棚田くんに言ってくれて、棚田くんのお手伝いも家のこともだいぶやりやすくなったんです。それに、田植えイベントで来てくれる人を喜ばせてあげたいという気持ちもあって、それが原動力になっていますね。

あとはやっぱり、棚田くんの人間的な魅力ですね。まず、人がやらないことも平気でやります。田植え体験のランチで子どもたちがご飯を残すんですけど、もったいないからとそれを全部食べるんですね。そんなこと、普通はできません。

それと、いつも元気で、弱ったり疲れたりしていることがまずないんです。いつでも走り回って、動き回って、うちの子どもと同じです。だから私、自分の子どもには棚田くんみたいになってほしいなと思っています。棚田くんがもっともっと成功したら、うちの子の未来もなんか見えそうだなっていう期待があるんです。

あと目立つところは、隙だらけということですよ。隙がありすぎるから、虫が飛んできてドーンと顔に当たったり、ありえへんことがよく起こります(笑)。

それと、ああ見えて意外と方向音痴です。電車の乗り換えのときも「大丈夫、こっちです」と言って反対方向行きに乗ったり、出雲大社へ日帰りで行ったのに道に迷って15分しかお参りできなかったり。そういう雰囲気やから、癒される人は多いんでしょうね。

彼は、私では理解できないことを色々とやっていて、本当にすごいと思います。それでいていつも見守ってくれているので、いつも感謝しています。

パワフルさに日々感ずる半面、心配するところも。

片山 邦夫

年は70歳、退職してからは社会貢献をしたくて、姫路市にある自然観察の森という施設で子どもを対象にしたボランティア活動を10年以上おこなっています。また、「人生はチャレンジだ」という信念のもと、ボーイスカウトを通じて青少年育成にも関わっています。

ニックネームは「グランパくんちゃん」。「grand papa」と本名の「片山邦夫」をかけて、そう名乗っています。私にも孫がおるけど、おじいちゃんとは呼ばせていない。「グランパくんちゃん」や。活動のほうでも子どもたちの前で「グランパくんちゃんです!!」って言ったら、みんな喜ぶんや。怖そうなおじさん、が普通に自己紹介しても怖いだろうから、そういうふうには笑いをとっています。

棚田くんの「未来の子どもに向けた活動」は、退職前から一方的に知っていたんですよ。私自身、彼のその活動に共感していて、「仕事を退職したら加入しよう」と決めていました。10年前の6月の田植えで出会いました。その時の彼の印象は早口でものを言い、頭の回転が速い、ガッツのある青年という印象です。言うならば「令和に生きる坂本龍馬」。元氣いっぱいバイタリティーに溢れる男。いろんなことに挑戦していますよね。元氣があるというのが一番いいんじゃないでしょうか。

テレビで「キラキラ輝く星の人がいる」と紹介され、棚田くんの活動内容全60個が放送されたこともあります。

そんな彼のパワフルさに日々感心する半面、少し心配するところもあります。彼は15年間、棚田の保全活動を続けているけど、限界だっただけありますよ。

彼は、SNSを駆使して集客するのは上手やけど、NPO法人の助成金が主な活動資金となっています。儲かる話であれば、スポンサーもついてくるけど、棚田改善の活動はそうともいえない。棚田くんと10年間、活動をやっていて「体験してみたい、棚田に興味がある」という人はいたけど、ほぼ全員去っていった。20〜30代の方が今入って、もし後に家庭を持つたら、なかなか厳しい部分もある。

棚田LOVERSに就職するのはいいけど、そこでずっと食べていけるかと言ったら難しい。

棚田くんがそれをどうクリアするかが気になるところです。そのためには、イベントも大事だけど、従業員の給料を出せるかというところなんです。

彼も年取ってきたら後継者や右腕がいなくて困ってしまう。他の村の人も「やれるものならやってみ」というように、徐々に米作りから退いていつている。彼が農業をやりだしたのは後継者がいないから。

昔は家族で田植えや稲刈りをしていたわけですよ。それが会社勤めになったら兼業農家になってしまう。5キロの米3000円で買える今の時代に3キロ1万円の米を買う？ 確かにおいしいお米やけど、現代の価値観で買う人がいるかというところ。彼はそれを体験型の米作りを催してそこで資金を集めている。僕はもっと野菜とか果物の農業の方が安泰だと思うのですが、彼は企画するのが好きだろうからね。

古民家を宿泊施設にして、増える空き家を活性化させていますが、これは波に乗っているように思います。これらも棚田の啓蒙となっていますよね。

棚田くんは、衝動的で、思いついた瞬間に突き進んでいく男なので、見守っていきたくないですね。誰が何を言おうと彼の中でオリジナルの答えはあると思うんです。批判的な人は近づけないほうがいいですね。困ったら助けてくれる人はいると思います。大阪から車で来た通りすがりの人が活動を手伝ってくれたということもありましたし。

今後は、彼自身が掲げている「未来の子どもに棚田を残す」という目標にもあるように、棚田LOVERSも10年20年とは言わず、その先の未来まで続いてほしい。もし彼が倒れたときなど、世話をしてくれる人がいるというのは心強いですからね。ただそのためには後継者づくりが肝心なので、組織を今のうちからつくってシステムをしっかりと組んでほしいです。あと、家庭を持ってくれると嬉しいですね、家族がいると今以上にパワー湧いてくると思います。僕からの熱望です。

あんなに熱い人はそうそういないので、一度会ってみて。

竹林京子

東京都府中市で「ことほぐ整体まほろば」という整体サロンを運営し、体質を根本的に変えていくためのセルフケアをお伝えしています。

以前、自己啓発系のセミナーに行ったことがあり、棚田くんとは同じセミナーを受けた共通の知り合いを介して出会いました。私には子どもがおりますが、日頃から自然との調和は

とても大切だなと思っていました。そこで、知人から柵田さんと話が合うのではと紹介されました。彼の活動には整体にも共通するものがとても多く、素晴らしい活動ですねという話をしました。

その後、柵田くんは一度会ってお話したいということで、兵庫から私の整体院に来て下さり、とても驚きました。

初めて会ったときは、本当におもしろい方だなと思いました。整体を受けてくださるというところでお招きしたものの、ご自身の活動や想いを伝えたいという気持ちが強かったみたいで、到着するや否や、ご自身の活動内容が書かれたパンフレットを施術ベッドの上に並べて、とても熱く語る様子には圧倒されました。

「ちょっとクセがあるかもしれない」という情報を、紹介してくれた知人から聞いていたが、なるほど……と妙に納得しました。ただ、特徴的な方ですが、嫌な印象は全然なくて、それだけの熱い想いをもって活動しているんだということがよく伝わりました。

施術後も一緒に食事しながら熱い想いを聞かせていただきました。サイトなどで活動内容は知ってはいましたが、実際に聞くと感動しましたね。

柵田くんのことを紹介するときは、決まって「美しい自然を次の世代の子どもたちにつなぐために人生をかけて活動している人がいる」と言っています。環境破壊から自然を守るた

めの活動は、1000人中1000人が否定することではないですよ、おそらく。共感しない人はいないと思うので、そこで興味を持った人には、柵田くんの活動をもっと深掘りして伝えるようにしています。

私は今、東京に暮らしていますが、柵田くんの熱い想いにほだされて、一度兵庫に行っているんです。「柵田LOVER's FES」という彼が主催するお祭りに整体師として出店させていただきました。当日は柵田くんが忙しすぎてあまり話はできませんでしたが、彼のまわりには常に人が集まっていました。

自分がやりたいことだけを頑張るのではなくて、参加者の夢や活動を応援したり、人を紹介したりと、仲間のことをとても大切にしていることが伝わりました。それも仲間うちでワイワイ騒いでいるだけではなくて、市川町の自治体の人ともうまく繋がりが活動されていて、信頼関係が深いんだなと思いました。

そして、皆さん柵田くんのことを心から応援していて、心底大好きなんだということが遠くからでも伝わりとても感動しました。チラシでは実際の熱量はわかりませんでした。現地に行ってみて、彼の想いと人柄と熱意であれだけの人が集まるんだと、単純にすごいなと感心しました。

また、翌年の夏に開催された子ども向けの宝キャンプというオンラインイベントにも参加

させてもらいました。私は子どもたちの足や姿勢を守り隊という活動をしているので、柵田であしゅび運動会などを企画したんです。河原で拾った石を足でつかみ、箱に入れて数を競うという遊びです。

柵田くんと、どのくらいの規模になるのか、何歳くらいの人が参加してくれるのかなど、何度も打ち合わせをしました。そのとき、彼はどうすればみんなが柵田に興味をもってくれるかという気持ちが第一優先なんだなと思いました。そして、さらにそれを私たちの活動とどうつなげるかを重んじてくれて、一生懸命企画を出してくれました。

意見が衝突することはありましたが、彼、熱いがゆえに先走ってしまうタイプですよ。あと、話の方向がずれてしまったりとか。そんなときは、一緒に組んでいたもうひとりの女性が、「ちょっと待った!」と話を止めて、私が「今この話だよね?」となだめて、柵田くんは「ああ、そうですね」と一旦冷静になる。軌道修正しながら話を進めていく感じでした。そうじゃないと終わらないんで(笑)。それだけ一生懸命なんだということは伝わりますよね。

これからも、柵田くんはあの勢いで突っ走っていくのではないかと思います。これからはさかなクンのように、一般の方にも広く受け入れられ人気者になるのではないのでしょうか。

あの独特なキャラが本当の意味で生かせれば、テレビで柵田くんを観る日も間違いなく近

いと思っていたところ早々に実現。彼が出演する番組を子どもと観ることもでき、楽しませていただけました。

あれほど寝る間も惜しんで柵田を語る人を見たことがないので、本当に「成幸」してほいす。多くの苦勞をしてきていると思いますが、何があっても負けない粘り強さ、ちよつと強引だけどもわりの人を巻き込めるエネルギーはすごいと思います。

今、世の中には農地や日本の農産業を守っていかないと、食べるものがなくなってしまうという流れがありますよね。彼の活動が日の目を見て、共感してくれる人が全国に広まって、市川町に人が溢れたらなと思います。

本当にとってもいい人で、あんなに熱い人はそうそういないので、ぜひ一度会ってみてください。

非常に純粋で、一途な方だと思います。

相沢勝也

現在、2代目として納豆を製造販売する会社を経営しています。もとは神戸に工場がありましたが、阪神淡路大震災により全壊。その後、姫路に引っ越し、この地では27年目になります。棚田くんが家で食べている納豆も、うちの会社から提供しているんですよ。

棚田くんとは15年ほど前、私が神戸にいたところに所属していた兵庫県有機農業研究会という団体のメンバー同士ということ知り合いました。彼から大豆に関する問い合わせを受けたのが、お話をするようになったきっかけです。私はオーガニックの納豆を作りたかったし、彼も有機農業に熱心だった。共通の目標を通じて仲良くなったかたちでしょうか。

当時、棚田くんは今の活動を始めたばかりで、市川町の有機農業の先駆者の師匠のお弟子さんでした。それほど深いつき合いではありませんが、今日までこじれずに関係は続いています。姫路と市川町は30分もあれば行き来できる距離で、家も近いんです。

現在は、棚田くんが主催する年2回の納豆づくり体験に必要なものを提供したり、月に1回、姫路でおこなわれるイベントで納豆を販売したり……といった関係性です。姫路のイベントには、私も年に1〜2回は立ち会うようにしています。

初めて会ったときから、若いのに非常に熱心な若者だなという印象がありました。農業を通して環境をよくすることが、回りまわって人間のためにもなるという信念を持っている、非常に純粋な方だと思います。一途ですよ。

印象的だったのは、6年ほど前におこなわれた兵庫県立大学のセミナーで、講師の方に矢継ぎ早に質問していたことです。もともと有機農業に関する知識が豊富で、納豆の発酵などに関する知識も年を追うごとに増していると思います。文献を読むなど勉強熱心だし、器用なところもありますね。

古いつき合いです。信念は揺るがないと思います。ただ、あまりに熱すぎてまわりの人と意見が合わないことがあるので、サポートメンバーは彼と信念が合わないと上手につき合えないかもしれません。

思ったことはすぐ実行したい性格ですが、それを実行するためには皆さんの賛同が必要なので、もう少しまわりの人の意見を聞いたほうがいいかもしれません。

もうひとつ、彼にアドバイスするとしたら、経済面でもうちよっとシビアになることでしょうか。一次産業で食っていくためには、お金を稼ぐためのアイデアを出さなければなりません。

んから。

今はイベントで人を多く集めることが主な活動になっていますが、それだけじゃなくて、年中田んぼに行っていることなど、地道な活動をSNSで発信したほうがいいんじゃないかなと思います。もっとビジネスのやり方を考えないと、今のNPOを維持していくのはなかなか難しいんじゃないかと、私からもよく提案しています。

農業を通じて環境を守っていく純粋な姿勢は見習わなければならないと感じており、ぜひ成功していただきたいので、陰ながらサポートはしているつもりです。

べ中してもいいくらい棚田のことが好きでたまらない人。

吉識真美

心理カウンセラー、ぬりえセラピスト、カラーセラピスト、イベントMC、ラジオパーソナリティー……本業、副業と分けず、自分の好きなことをやっています。

棚田くんを抱いた初めの印象はとても悪かったです（笑）。最初の出会いは、とある講演会。

彼が前に出て自身の活動の説明をしていたんです。彼は当時30代だったにもかかわらず、見た目が10歳以上老けて見え、髪の毛もボサボサ、服装も作業着のようでした。人前に出るのがこんな格好で来たんや……と思いましたね。一生懸命さは伝わるけど、何を喋っているかわからない、何が伝えたいのかわからないといったような感じでした。この人、何なんだろう？ という驚きの感情は今でも覚えています。

次に出会ったのは、楽読という速読に似た技術があるのですが、それを学ぶために神戸スクールに通っていたときです。ある日、その教室の講師が「神崎郡から通っている人がいるよ」と言われ紹介されたのが棚田くんです。色々話しているうち、彼が婚活などのイベントを主催していることがわかり「じゃあそこでMCやったら楽しそう」となって本格的に関わり始めました。

今では、棚田と心中してもいいくらい、とにかく棚田のことが好きでたまらない人という印象を持っています。すべての原動力がそこにある。棚田が好きだからこそ、いろんなことに挑戦できるのだと思います。むしろ棚田ひとつに一生懸命になりすぎて、まわりのことももっと考えてほしいくらい（笑）。

以前、棚田くんの授賞式に同行する機会がありました。棚田くんから直々に頼まれて、東京まで授賞式に行ってきたのですが、彼は東京で出会う人のためにお土産でお米1キヨを用

意していたんです。「自分で作ったお米をプレゼントして知ってもらいたい」という気持ちはわかります。ただ驚いたのは、東京で待ち合わせて、出会った瞬間に早速「ハイ」ってお米を渡されたんです。私はいつでも柵田さんと会うことができるので、さすがに「え、今……？」となりました。そのあと東京を観光するつもりだったので、重いお米持って歩くわけにもいかず、「今、渡すんはやめて」って返しましたけど。

柵田くんは、柵田が好きすぎるゆえに自分中心になってしまう。「この人にはこんな言葉を今言ったらいいかな」とか、それを受ける人の都合や場の空気を考えられない。自分の「こうしたい！」が先走っちゃう。

でも、何かひとつの物事に没頭できるということは、なかなか今の時代にできる人は少ないじゃないですか。誰かに反対されたり、または迷惑をかけたり。好きなことを貫くのは何かしらの弊害があるんです。彼はなんだかんだ、「出る杭は打たれる」で失敗もしながらやってきたけど、それを貫いているのはすごいと思うし、ここまで来たらまわりに多少迷惑をかけようが自分の意志を貫いてほしい。地元だけじゃなく日本中、世界中の柵田と繋がりたいというのが彼の中にあると思うので、やはり世界的にも「柵田といえば柵田くん」といわれるようになれば面白いと思います。

何かを始めるにあたって、年齢は関係ないんです。若いときに諦めた夢を、40代でも70代でも叶えることはできる。気づいたときがスタートだから。柵田くんは大学で環境学に目覚めて「柵田を守りたい」と思うようになったそうです。柵田くんはそういったように好きを貫いている人。この本を読んで「好きを貫くってこんなことなんだ、私も好きなことで夢を追いかけていな」と、ひとりでも思う人がいたらいいなと思っています。

私は日常的に柵田くんに「いいことはいい、ダメなものはダメ」とズバズバ言っているんです。

柵田くんは泣きながらも言い返しますよ。昔は村の人に反対されたりするとよく泣いていました。とにかくケンカしながらでも、言い合える関係だと思っています。ただケンカしたから関係性が悪くなるとかはなく、腹を割って話すから誤解なくわかり合えて、その結果、物事を前に進められる。柵田くんは表面的には人を寄せつけるけど、内面の深い心でつき合うと難しい。そういう面でいうと私も、最初は様子を見ながらつき合っていたけど、5、6年つき合ってみて「この子をもっと深くいかないと本心でつき合えないな」とわかってきました。なので、最初の頃より今の方が、お互い主張が激しくなって色々と言えるようになりました。

言葉でいうと薄っぺらくなってしまうけど、結局「人と人との繋がり」ですかね。

私も関わらせてもらっている柵田くんの活動のひとつに「子ども食堂」というのがありま

す。子どもたちが柵田くんの畑で採れた野菜を使って料理をするんです。普段、子育てで自分の時間が取れないお母さんが、子どものことを気にせず過ごせるお母さんだけの時間を持つてほしい。子どもたちが柵田くんと料理をしている間、私がお母さんたちの悩み相談などを聞くことで、彼女たちに安らぎの時間を持つてもらっています。そうすることで私も目標が達成されるんですね。

そのように、私の想いも一緒に叶えられる柵田くんの活動に、今後も協力していきたいと思えます。

一生懸命伝えようとする姿勢には熱いものを感じる。

山下 正雄

沖縄県の西表島出身で、「まーちゃんうーぽー」という三線アーティストとして、沖縄音楽のライブ活動をしています。ちなみにまーちゃんは子どもの頃からのニックネームで、うーぽーは感性でつけました。人に説明するときは、宇宙の風を感じる、宇宙の帆という意味が

あると言っています。

私は沖縄三線アーティストとして活動しながら市民団体『NGO風人ゆいまーる』を主催し、平和活動、社会活動を展開しています。具体的な活動としては、沖縄音楽によるお祭り、地球に緑を増やすための植林、子どもたちの保養プロジェクトの3つを展開しています。保養プロジェクトは、西表島に福島県の子どもたちを連れて行き、子どもたちの心と身体の健康を守るという活動です。

柵田くんとは僕の活動を通じてひょんなことから出会い、「柵田LOVER, s F E S」に歌いに来てほしいというオファーがありました。そのご縁が今も続いています。

初対面の印象は正直覚えていませんが、積極的に一生懸命上を目指す、向上心が強い人という雰囲気がありました。

柵田くんのまわりには多くの方がいますが、僕の助言は結構影響が大きいと思います。彼から相談を受けることも多く、僕の26年間の経験値からアドバイスをしています。僕の話うことは彼に響いているのではないのでしょうか。

その象徴的なエピソードが、昨年の「柵田LOVER, s F E S」です。今までは出店ブースがいくつかあるなかで音楽フェスを開くという形式でしたが、来た人がカフェでお茶を飲んだり買い物をしたりして「楽しかったね」というだけでは、柵田に還元しないのではない

かと思っていました。そこで、やるからには田んぼやお米作りにつながるインパクトのあることをしたいと思って、「大綱プロジェクト」を提案しました。

これは、まず田んぼの稲わらから縄を作って編み込み、その縄を束ねて、日本古来の儀式である大綱引きをするという催しです。お祭り当日までに参加者に作ってもらうという過程を経ることで、参加者と田んぼ、日本文化を繋げることに成功しました。自分たちで一から綱を作る大綱引きは、日本のどこを探してもありません。

今年もぜひ成功させたいので、より綱を長く大きくしたり、参加者との関わりを増やしたりしていきたいと考えています。

実は、僕自身が棚田エコ学園で縄づくりのワークショップを開催しているんです。たくさんの人が参加していますが、9割が初心者です。子どもたちからは「難しいよ」「こんなのやってられない」という声も聞かれますが、徐々にできるようになっていく喜びを間近で見ていると、僕もワクワクします。

完成した綱を使ってプチ綱引きをすると、非常に盛り上がるんですよ。さっきまではぼやいていた子どもたちが、いざ綱引きを始めると夢中になる。単純なことほど人間は熱くなるんですよ。そこがおもしろいんです。

「環境や食のことを考えよう」と言葉にすると難しく聞かれますが、このように、深く考え

ずに感性を大事にしてほしいと思います。花火や出店を楽しむものから儀式のようなもので、祭りといってもいろいろな種類がありますが、古くから日本人にとって、祭りは純粋に心がワクワクするものですよ。そこを論理的に説明する必要はありません。

「棚田LOVER's FES」には、環境的な危機意識と純粋な楽しさの両方があると思います。祭りを体感することで、人として生きていくために忘れていたものを取り戻せるので、棚田くんの取り組みは素晴らしいと感じています。

これからは都会ではなく田舎が主役だと思っています。田舎の誰も来ないような場所で田植えのときにはみんなが集まってくるのは彼の魅力だと思われ、今後も続けてほしいですね。

棚田くんの活動に光が当たれば、地方で頑張る人のひとつのサンプルになるのではないのでしょうか。棚田くんが田舎のヒーローとして知れ渡り、田舎の田んぼ作りって素敵だな、楽しいなということを知った人が気づくきっかけになればいいなと思います。

そして、僕自身も自然の中で歌をうたっていくことを軸としていっているので、日本古来の大切なものを未来に残していく彼の活動には賛同しています。また、コロナ禍の影響もあって、今の時代、健康や食、農業はとても重要なテーマとして考えられるようになりました。10、20年前だったら見向きもされなかったと思います。だから、日本の未来に焦点を当てて、一緒にフェスを盛り上げていきたいです。

棚田くんには基本的によいことも悪いこともきちんと伝えて、本心本音でつき合っています。彼は言葉があまり上手ではありませんが、不器用なりに一生懸命伝えようとする姿勢には熱いものを感じます。だから、周りの人たちも突き動かされるのではないのでしょうか。ただ、想いが強いあまりに周りを見ずにストレートに言うてしまうことがあるので、「これはまずいな」と思ったら客観的視点でアドバイスをしています。

棚田くん自身は固いところがあるというか、簡単に言うとは真っ直ぐな人間なんですよ。でも、彼が殻を破らなければ、活動が進化することはありません。彼が人間的に成長することで、棚田くん自身のひとつの象徴である棚田LOVER's FESも成功し、町の成功にも繋がると思います。

祭りを通して日本の魂を取り戻してほしいと願っているのです、彼の成長は今後も見守らせてもらいます。

あとは、棚田くん個人の人生も大事だと思うので、結婚して子どもができて、幸せをつかみながらも田んぼと共に生きていくことを楽しみにしています。

猪突猛進なところがある愛されキャラ。

影山 竜

姫路市に住んでいる影山と申します。30年以上、プログラマーの仕事をしていて、最近はずにビジネス系のプログラムを作っています。

私は生まれも育ちも神奈川県ですが、2011年の東日本大震災の翌年、関西へ移住しました。福島原発事故による土壌汚染を警戒してのことです。そして、プログラマーの傍ら、関西で知り合った人たちと西宮市で阪神・市民放射能測定所を運営しています。

棚田くんとの出会いは、2012年から2013年、市川町の農家の手伝いに行ったことがきっかけです。その農家は棚田くんの師匠にあたる方で、市川町にも棚田があるよということとで案内してもらいました。そのとき、棚田くんが棚田保全の活動をしていることを聞ききました。見た目は、田舎の純朴な青年という印象でした。

年に1回、棚田くんは棚田エコ学園という勉強会を開催しています。私と彼の間では、2011年以来、土壌の放射能汚染が広がったという共通認識があるので、その会で私は放

射能汚染の話を必ずさせてもらっています。

それまではプログラマーとして働いてきたので、農業関係の知り合いは全くいませんでした。生きていくためには何も食べないという選択肢はないので、棚田くんを通じて農業関係の知識や人脈が増えたことは嬉しく感じています。最近は開催されているかわかりませんが、棚田エコ学園のほかにも、彼自身が農業について教わった人たちの講演会にはよく足を運んでいました。有機農業関係の方が多いですね。

棚田くんのことを紹介するとしたら、「棚田保全というあまり商売にならない活動をずっとしてきた人」。よくやっているなと感心していますが、日本の貧富の格差が広がり、産業がどんどん衰退している状態で、彼のような生き方もひとつの選択肢なのかなと思うこともあります。商売が下手な人でも生きていける世の中で、まさに彼がそれを感じさせてくれる存在なのかもしれないですね。

あと、割と猪突猛進なところがありますね。どのイベントでもとりあえずやってみるのに、実際にみんなの前で話すときテンパって話しちゃう。そのギャップがおもしろいなと思っています。最初は緊張がこちらにも伝わってくる感じでしたが、最近は話すのもうまくなったかな。でも、逆にそのたどたどしい様子が、関わった人たちを「面倒をみてやろう」という気にさせるのかもしれないですね。愛されキャラだと思います。

ただ、なかなか彼も空気を読めないところはあるので、私とはありませんが、一部の人は衝突することもあるようです。でも、それでいいと思います。空気なんか読んでも仕方ないので。

私自身も厚かましい性格なので、彼に対して、思ったままのキツイことを言うこともあります。でも、彼には幸せになってほしいと願っています。今後も彼は今の活動をずっと続けられて、理解者に囲まれて成長していくのかなと思っています。

彼は、棚田から生まれた棚田の精霊。

波多野 靖之

普段は『ダイバーシティなカナエ軍曹☆』というバーを経営しております。

永菅さんとの出会いのきっかけは7、8年以上前です。永菅さんが姫路の駅前で農産物を持ち込んで、商店街でやっているようなバザーをされていました。当時から永菅さんは、今と変わらずハキハキとしていて純朴な感じでしたよ。

バザーでチラシをいただき、永菅さんの講演会イベントの案内を受けたんです。当時、私自身も無農薬かつ化学肥料も使わずに作る農産物など、環境について気になっていたのですが、永菅さんが環境保全型農業に取り組んでいることを知り、彼に興味を持ちました。講演会では市川町の映像をもとに、ご自身のプロフィールや活動内容を述べられていました。「アンダンテく稲の旋律」という農業を舞台にした映画も放映されたんです。

農業すると決めたわけではないけど、永菅さんから「学んでみないか、体験してみないか」という軽い感じでお誘いを受けたので、柵田エコ学園に入らせていただいたんです。彼はしつつこくなく、あっさりしているんですね。「一回行ったらずっと行かないといけないんじゃないか」「縁切るのが難しい」とかそういった心配が全然なくて。こっちが関わりたくないのなら関わらなくていいし、関わりたかったらつき添ってくれるし。それに永菅さんは上から物を言う人ではありません。「教えてあげる」という教授的な態度をとらないので、受講生が何か文句を言っても「ごめんなさい」とすぐ素直に謝るんです。なので、私も肩肘張らずできました。

エコ学園には1、2年の間、普通に通っていたんですけど、その後は他の仕事や自分の活動もあり、行くことが難しくなりました。ですが、時々、永菅さんと他の農業関係者の方々がうちのバーに遊びに来てくれたりもします。永菅さんは歌うことが好きみたいです。大勢でよく来てくれるのですが、そのたび「はよ歌いたい、はよ歌いたい」と言っていますね。その時々で流行っている曲を歌うのですが、まわりの人からも「柵田さん、はよ歌いたいんやろ」と言われるくらいカラオケが好きな人です。上手いわけではないけど「お前が最初に歌えよ」とかではなく、まず自分から歌って仲間と楽しむ。そんな感じのところがいいですね。

永菅さんに対して、こんなことを言うと失礼になるかもしれませんが「農家の人」というイメージがないんです。彼は、農家というより「柵田が喋っている」という感じです。別の言い方をすると、柵田から生まれた柵田の精霊かな。柵田の土とか石垣が喋っているようです。私自身、「自分と自然をリンクさせたい」という想いがあるので、永菅さんと関わることによってそれが実現されるのだと思っています。

また、永菅さんは、ごちゃごちゃ文句を言わない人です。たとえば農業でも「生産性」とか「この食品は添加物を使っている」とか文句言う人もいるけど、そういうことを言わない。あくまで自分の主張をただ述べるという、裏表ないところが好感を持てます。

永菅さんは、以前から「売れたらいい」というのではなく「環境を大事にする」ということを漂わせていました。これからも柵田や土、水や空気を大切にして「柵田の声」を聞かせてくれたらええかなと思います。そしてまた、仲よくしていただきたい。永菅さんと仲よく

していたら、私も「健康なまま行けるんちゃうか」と思うんです。私も彼に会って、いろんな衝動を受けました。この本が「棚田くんと話してみたい」というような「仕掛け」になれればいいと思います。

棚田を愛し、情熱を持って活動している期待の星。

須藤 和子

公立の保育士として25年間の勤務後、2018年から自宅である大阪府岸和田市の築100年以上経つ元茅葺き屋根の古民家で、お母さんとこどもの和み処「心和受（ここな）」というサロンを経営しています。

棚田くんと初めての出会いは、2018年2月におこなわれた味噌の手づくりイベントでした。棚田くんはイベント主催者、私は参加者でした。当時の印象としては、ひとつひとつの取り組みを一生懸命に取り組まれる方なんだなあという感じでした。味噌づくり体験の後日に、納豆づくり体験もしたのですが、どちらも体験して「楽しかったね、終わり」では

なく、ひとつひとつどんな意味があるか、出来上がるまでの過程を知ることができました。体験終了後はみんなでオーガニックのランチをいただき、ひとりひとり感想を言い合った時に、共感してお互い涙する方々もいました。棚田くんのイベントに参加すると、その場かぎりの関係ではなく人と人が繋がって広がっていくのを感じています（棚田エコ学園では、毎回の活動の中で自己紹介や今日の活動の流れの紹介、活動後の振り返りなどもおこないます）。当時、そこで知り合って、私のサロンにも来て下さるようになった方もいます。

みんなで育ち合えるような視点で活動していることが素晴らしいと感動し、その日のうちに春からスタートの棚田エコ学園（春スタートで1年間の農業体験）に申し込みました。そこでの経験は岸和田での私の価値観をも変えてくれたのです。

今住んでいる岸和田の自宅兼サロンの古民家には2000年に引っ越してきました。毎年、その村では田植えの時期に大溝掘りという農業に関する行事がおこなわれていて、農家も非農家も町内に住む人たちみんなが関わる行事に、私も毎年参加していました。エコ学園で学んだあとに、翌年のその行事に参加してみると色々なことに気がきました。なかでも一番感動したのが「岸和田にも自然農法に取り組まれている方がいた」ということです。

エコ学園を経験する前には、全く何も気づかなかったので、ずっと見逃していたのだろうなと思いました。移住してからの約18年間、毎年見ていたのに気がつかず、棚田くんのこ

縁や学びから気づけたことに、驚くと同時に感動しました。

エコ学園の後半はサロンのオープンなどで結局参加できなかったのですが、私が植えたお米を収穫して送って下さったり、卒業後も私のためになりそうなことがあれば、その都度お声掛け下さり、そういったひとりひとりのご縁を大切にされている姿が素晴らしいと尊敬しています。

彼はまさに、棚田のことを愛し、情熱を持って活動している期待の星です。

私自身も、棚田くんと同じように日本含め世界の棚田の景色が好きですし、オリエンタルジャムウ®セフピーというバリ島と日本のよさを融合させた、薬草を使ったリラクゼーションサロンを経営しています。サロンをオープンした年に行ったバリ島研修旅行では、バリ島の棚田が見える景色を目にしたときに棚田くんの棚田と重なり感動して、改めて先人の知恵を守っていききたいと思いました。

棚田くんは、あと5年で棚田がなくなるということを知り、学生時代から立ち上がられたとお聞きしました。大学在学中からそういった自然環境のことや、日本の文化を引き継いでいこうと思いい立ち、15年続けられているというのが素晴らしい。情熱がないと途中で逃げたくなると思います。

棚田くんと初めて会ってから3年経つのですが、彼は1年ごとにバージョンアップしてい

ます。「シャイニング棚田くん」と名前がついているように本当に光り輝いています。日本の棚田界を背負う中心人物になるのではないかと。

私は、今でも棚田くんに出会えて本当によかったと思っています。棚田への情熱を一心に注ぎ、ご縁を大切にし、人と人との間を繋いでいく棚田くんの姿は、まさに、私が今後の人生の中でやり遂げたいと願う「未来を担う子どもたちに愛と平和な世の中を届ける」活動に繋がることだと感じています。

私から棚田くんへも何かできることがあれば、今回のインタビューみたいにお手伝いできたらと思っています。また、棚田くんは私だけではなく、どんな人ともうまくやっていけるような人だと、日々のFacebookや活動を見ていて感じているので、これからどんどん情熱的に邁進していくだろうと期待し応援しています。

「もっと人に甘えてもいいんだよ」と言ってみてあげたい。

森北 あいこ

神戸市の元町で安心・安全な神戸野菜と米粉デザートを提供するカフェを運営しています。永菅くんとは、無農薬の農家に興味がある方を集めてお話会や映画を見るといって毎年恒例のイベントで出会いました。3〜4年前のことです。主催者は永菅くんのほかに何名かいて、私はそのうちの1人に「無農薬の野菜を取り扱っているのです、よかったら料理を提供するお手伝いに来てくれませんか」と声をかけてもらいました。ボランティアで、力になればいいなという思いからです。

イベント中はバタバタしていたので、永菅くんとは軽く自己紹介をしただけでしたが、「すべての人に気配りをする一生懸命な人だな」というのが第一印象です。また、今まで出会ったことがないタイプで、話し方も独特なので印象に残りました。彼ともっと関わってみたい、と好感を持ちました。

その後は、お米を育てる会に参加したり、イベントで料理を提供したり、カフェの広報活動について助言をもらったりと、持ちつ持たれつの関係性が続いています。彼のことを知らない人に紹介するとしたら、「柵田に人生をかける人」ですね。親しいスタッフには強い口調で話すこともあるのですが、私はきついなと思ったことはありません。印象に残っているエピソードはふたつあります。ふたりでご飯を食べに行ったことがあるのですが、オンもオフも変わらないというか、本当に裏表のない人だなと感じました。もうひとつは、柵田の古民家で開催したイベントで、私が提供した料理をお子さんたちが残してしまい、悲しい想いをしていたときです。永菅くんは「僕が全部食べるので置いておいてください」と言っただけ一生懸命かき込んでくれて、とても嬉しかったです。感動しましたね。

これからも、そのまま真っすぐに突き進むだろうと思うし、そうあってほしいと思います。たくさんの人を巻き込んで、柵田のことがもっと知れ渡って……という形になります。市川町もかなり盛り上がるのではないのでしょうか。

ただ、もっと人に甘えてほしいなとも思います。「できればいいんで」とよく言われるのですが、無理だったら全部自分で背負い込んでしまうんです。やっぱり、人の気持ちを考えられる人なので、「もっと人に甘えてもいいんだよ」と言ってみてあげたいですね。

今のまま楽しくやっていつまでもらえたらいいな。

竹部 桂子

大阪市在住の竹部桂子です。3歳半の男の子の母です。

永菅さんに初めてお会いしたのは、今から4年前のことです。知人の古民家で「糸かけ曼荼羅」のワークショップに私も永菅さんも参加していて、そのとき彼から柵田のチラシをもらったのがご縁です。

チラシを渡してくるときに納豆のように粘り強くといいますか、ワーッとしゃべられ始めて。「柵田LOVERS FESというお祭りがあって、商店街では定期市をやっていて、さらにさらに」みたいなノンストップトーク。「あ、ありがとうございます！」という感じであとずさったのを覚えています。

ワークショップの最中は全くしゃべらなかつたのに、スイッチが入ったように止まらなかつたので、とても驚きました。でも、そのおかげで熱意は伝わってきて、チラシに書かれている自然体験に「いつか行ってみたいな」という前向きな気持ちになりました。

私は結婚する前は航空会社で客室乗務員をしていました。結婚するとどうしてもすれ違いの生活になり、家庭を第一にしたいと考えてウェブ関係に転職しようと思いました。そして、子どもには、転ぶと痛いコンクリートがある場所ではなく、自然が多い場所で安心して遊んだり食べたりしてほしいと考えました。そういう願いもあって自然に興味があり、永菅さんと初めて出会った3年後くらいに、彼が開催している一泊二日の自然体験イベントに息子と一緒に参加しました。

永菅さんは非常に精力的で「おはようございます！」というすごく元気な挨拶が始まって、フォロワーやサポートはとても細やかで温かく、本当にありがたかったです。イベントの内容も素敵でした！

市川町の森に入り、女性も小さな子どもも一緒にみんなで木の皮を剥ぐなどして光を通す「きらめき間伐」という作業があつて、初めて生身の木ののちに触れさせていただいた気がしました。ものすごく感動しました。午後は稲の藁から綱を作るワークショップ。さらに野外でバーベキューをして、焚き火を燃やしながらまーちゃんバンドさんが星空の下で生演奏してくれました。すると隣の川からたくさんさんのホタルが舞ってきて、もう号泣しながら大感動。生涯忘れられないスペシャルな一日でした。

それがきっかけで、永菅さんのお手伝いをさせていただいたり、「柵田LOVERS

「FES」の実行委員会をさせていただいたりするようになりました。

とても素敵な方々とイベントを作り上げること、自分に足りなかったものを学ばせていただいたり、磨かせていただいています。大変なことももちろんありますが、やっぱり楽しいとか、嬉しい、感動とかっていう経験があるから、今も関わらせてもらっています。

実際にイベントを運営する側に回ってみて、永菅さんへの尊敬の気持ちがさらに大きくなりました。私も環境活動家の谷口貴久さんのイベントをさせていただいたときに、イベントを主催するのがどれほど大変なものなのか身をもって知りました。それは定員30名のイベントでしたから、その10倍以上の人を動員する「柵田LOVER's FES」を取り仕切り、それ以外にもたくさんの方を同時に進めている永菅さんは、本当にすごいと思います。

しかもただ取り仕切るだけではなくて、ひとりひとりに目を配って、スタッフのサポートもしてくれる。加えて、何かある前から率先して動き、自らどんどん物事を進めていくんです。こんな大変な活動を15年も続けていて、感謝と尊敬でいっぱいになります。

いい面がたくさんあるんですけど、こうしたほうがよくなるのにな、と思う部分もあります。常に力が入っているように感じるので、ふっと深呼吸する回数をもう少し増やしていたでもいいのかな……と。何でも自分でやるバイタリティーは、永菅さんのすごいところなのですが、まわりの方や皆さんの力を頼ってもいいのでは、と思います。私が偉そうに言

えることではないのですが。

今は良好な関係を築けていますが、あるとき、距離を置いたこともありました。まさにこの本を出すための資金作りをしているときに、「これは永菅さんがしてきたチャレンジの中でも、一番大きなものだ」と私は捉えていました。少しでも力になりたくて、そこまでやってくださいと言われていないのに、自分でどんどん背負いこんでしまったんです。そのうち無理やり進めるような形になって、永菅さんからは「もうちょっと考えた方がいい」と言われました。それがもう凶星すぎて心が折れてしまい、永菅さんと距離を置くことにしたんです。

2週間くらい連絡を取らないでいたのですが、ふと考えがめぐってきたりして。初めて見せてもらった柵田の景色に感動して涙が出て、この美しい景色を息子の時代にも残したいと思った時のことを。その想いから「柵田LOVER's FES」のスタッフをしたり、イベントのお手伝いをさせてもらったり、プロボノ活動にも参加してきましたが、気持ちは結局変わらないんだということがわかりました。

永菅さんに言われたことは間違っていないし、一緒にいることでもっと成長できるし、理想に向かっていくことができる。そのように感じ、また彼の活動に参加させていただきました。古民家で会うと、不思議にいつものように笑顔で話せて、素直になってよかったと心から思い、以前のような関係を築かせていただき、受け入れて下さる度量の大きさのような

ものを感じました。

言い方やタイミングをもう少し気遣ってもらえたらと感じることはありますが、そのぶん自分がタフになっていけるかなと思ったりします。

そういうところからでしょうか、「永菅さんに似ているね」と言われたことが何度かあります。

私のほうがご迷惑をお掛けしてしまった時でも、助けていただいたり、アドバイス下さったり……そんな姿に「ありがたいな」という想いが湧き、自然に感謝が湧いてきます。

永菅さんには、今のまま楽しくやってもらえたらいいなと思っています。その先にはたくさんの笑顔があれば、本当に素晴らしいと。私も力になれたり、より成長していけたら幸せです。そして、少しでも柵田に関わる人たちや子どもたちが幸せだと思える瞬間に立ち会えたら、すごく嬉しいなと思っています。

いつもほんとうに、ありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願いいたします！

彼は本当に裏表がありません。信頼できる魅力的な人です。

早川 宏美

柵田さんと知り合ったきっかけはFacebookです。私も彼もあるオンラインサロンに入っています、そのつながりで出会いました。当時、私は馬を育てる場所を探していて、それをするうえで農業などを勉強しておきたいなと思っていました。そんなときに柵田くんを見つけたんです。

私は乗馬を趣味にしています、競走馬にも興味を持つようになり、競馬場にも行くようになりました。サラブレッドは年間7000頭もデビューするけど、引退した子はどうなるんだろうと疑問を持ち、調べてみたのです。すると、乗馬クラブで飼われている子はごく少数で、98%は馬肉になったり、化粧品のおやプラセンタになったり、ドッグフードになったりしているのを知りました。その現状を知って、保護活動に参加するようになったのです。それまでも野良犬や野良猫の保護活動をしておりましたが、そちらはテレビなどで取り上げられる機会が増え、皆さんに知ってもらえるようになりましたので身を引きました。それ

から引退競争馬の保護活動を通して、競馬の元調教師の角居勝彦さんと知り合い、レースホースの保護活動を一緒にさせていただいております。

まだまだ救える命は少ないですけど、引退競争馬をホースセラピーのセラピーホースに調教し、養護施設や牧場に引き渡し、天寿を全うしてもらえたら、本当に嬉しいですね。

ゆくゆくはセラピーホースやイヌ、ネコなどの動物たちを保護する施設を自分で持ち、その近くの古民家で、自活を余儀なくされている子どもや、居場所を失った子どもたちが気軽に訪れ、馬たちと触れ合いながら癒される空間を作れたらと思っています。

その話を棚田さんにしたら、なんと彼はぼろぼろと涙を流したのです。私の馬に対する想いと、彼の棚田への想いがシンクロして泣いてしまったそうです。それを見て私も泣いてしまいました。そのときに「一緒に活動しませんか」と言ってくれて、そこからイベントなどでお手伝いをするようになりました。

オンラインではなく実物に初めてお会いしたときは、早口な人だなと思いましたね（笑）。オンラインでも早口ですけど、全く同じ。彼は本当に裏表がありません。よそ行きなこともしないので、よけいに信頼できるし、魅力的な人ですよ。

私は人間不信から動物にのめり込んだ経緯があるので、かつては人と接するのが苦手でした。それを聞いた棚田さんは、こう言ったんです。「僕のことを馬と違って接してください。

馬と同じように愛してくれたらそれでいいです」と。そういう発想ができる人なんですよ。それ以来、言い合いになると「馬のように優しくしてください」と言ってきます（笑）。

棚田さんはたくさんの方が慕ってくれているので、今のままでいてくださったら、それでいいですね。変わらずいてほしい。

ただ、見た目は磨けば光る人だと思っています。服装に関しては、これまで何度も言ってきました。髪の毛も切った方が素敵だよ、とは言いますが、なかなか響かない。それが最近、女性陣の意見を聞いて、多少ですが、見た目を気にしてくれるようになりました（笑）。でも、もっともつと格好よくなれる素質はあるんですよ。多くの人に夢を与えるなら、やはり身なりを整えるのが大事。特に若い人はついてきてくれないと思うので、もっと素敵になるためにも、見た目についてはこれからも言っていくつもりです（笑）。

「こんな人が世の中におるんや」という新鮮な驚き。

坂田 ふみえ

2021年の5月2日から、住み込みの形で棚田くんの活動や「しろめて」のお手伝いをさせてもらっています。主人と娘が大阪で暮らしていて、私ひとりでここに来ました。ですから、単身赴任のような形ですね。

私には妹がいます、実は彼女の方が私よりも先に棚田くんと出会っています。妹は「楽読」という速読のメソッドの仕事をしていて、棚田くんがその受講生さんだったのです。

私が棚田くんを知ったのはFacebook上です。こんな人がいるんだと興味を持って、野草摘みイベントに参加しました。それが2021年3月のことです。初めて「しろめて」に来まして、そのときに「キッチンの床を拭きたい！」と思いました。棚田くんはとにかく忙しそうで、床を拭いている暇もなくて汚れていたのです。

私はここ最近、米や野菜を作ってくれる農家の方々に「ありがたいな、すごいことをしてくれているな」という尊敬の念を強く持つようになっていました。がんばっている棚田くんを見ていたら、「役に立ちたいな」と思いまして、1カ月の住み込みで掃除や畑仕事をするようになったのです。

それから1カ月が経ちましたが、本当に充実した日々でした。初めて鍬を持たせてもらったり、芝刈り機も教えてもらったり、米や野菜の種を植えるイベントも参加させてもらったり。夜になればあちこちでホタルが飛んでいるし、色々な体験を1カ月めいっぱいやったので、めちゃくちゃ楽しかったです。それと、農家さんへの尊敬の気持ちがあります強くなりましたね。こんなに大変なことを続けていく根性は、私にはないです（笑）。

住み込みが楽しかったのは、農作業がおもしろかったというのもありますが、棚田くんという人間の魅力も大きいですね。私からすると「こんな人が世の中におるんや」という新鮮な驚きです。

一言で表すなら野生児ですね。やることなすこと普通じゃなくて、見ていたらおかしくなることばかり。歩いているだけであちこちにおつかったり、水の入った容器を動かしたら床がびちゃびちゃになったり、車で「さあ、出発」というときに、門にガンツとぶつかったり。ほっとけない弟みたいな感じですよ。一生懸命なのはわかるんですけど、黙って見てられへんと言いますか。

この間も脱輪していましたからね。その日は講演会があるというので、おしゃれして張り

切っていました。私も車に乗せてもらって、途中までは普通に走っていたんですよ。それがあるところでバックしたらブロックを超えてしまつて脱輪。結局、JAFを呼ぶはめになりました。パツて見たら、柵田くんはしょぼーんとして落ち込んでるんですよ。かわいそうなんだけど、なんかおかしくて、私だけ笑っていました。柵田くんはいつでも元気だから、何かあつても落ち込んでいるのか判別できないことがあるんですよ。でも、そのときは落ち込んでいるのが丸わかりでしたね。

柵田くんのすごいところは他にもあつて、基本的には来るもの拒まずの精神なんですよ。なにしろ、一度イベントに参加した私を住み込みで受け入れるくらいですから。

彼が言っていたんですけど、よっぽどの犯罪者とか自分を殺しに来るとか、そういうヤバイ人以外は受け入れるそうです。

そういえば、先日ものすごくワイルドな人が来られましたね。上半身は裸で腰に麻布を巻いた裸足の男性です。その人がすごくフレンドリーな感じでやってくるんですよ。悪い人ではなさそうなんですけど、とにかくインパクトがすごくて、柵田くんのお友達つてこんな人がいるんだつて驚かされました。

本当に色々な人が柵田くんの元に来ますよね。それを自然体で受け入れる彼の器は、本当に大きいなと思います。

彼の行動力は本当にすさまじく、尊敬するばかりです。

金本光世

私は元々自然が好きで、学生時代から自然な暮らしには関心を持っていました。真剣に考えるようになり始めたのは、子どもが生まれてからです。今から13年くらい前、半農半Xを読んだり、アースデイのイベントに触れる機会があったりしたんですね。そういう活動をされている方と繋がるうちに、自分でもそういう暮らしがしたいなと思うようになりました。その後色々ありましたが、昨年から今年にかけて転機を迎え、4月から自給自足のスキルを身につけるために和歌山の農業学校へ行く予定でしたところ、2020年の3月にたまたま柵田くんと話す機会がありました。「ここで学んでみませんか」と誘われて、それからは柵田LOVERSや「しろめて」の活動をさせてもらっています。

柵田くんとは同じオンラインサロンに参加している縁で、2020年の9月に初めて出会いました。初めのうちはFacebookを通してお互いの活動状況をやり取りする程度で、特別親しいという関係でもなかったんですね。

それがあるとき、情報交換じゃないですけどズームで話しましょうかと持ちかけられて、オンラインでお話をする事になったんです。最近どうしてるんですかと聞かれたので、仕事を辞めて4月から農業学校へ行こうと思っていると伝えました。すると棚田くんが「それなら、うちでもできますよ」と。どういうことを学べるのかを聞いてみると、通おうと思っていた農業学校とは内容が少し違いました。とはいえ、僕自身も明確にこの方法で農業をやりたいと具体的に決めていたわけではないので、それならこのご縁を大切にしようということで、棚田くんの提案に乗ったという感じでした。

ここに来て改めて感じますが、棚田くんは本当に不思議な人ですね。僕の想像を遥かに超えます。少なくとも、彼のようなタイプの人に会ったことはありません。とにかくやっていることが吹っ切れている。

「棚田LOVER,S FES」をはじめ、たくさんのイベントを精力的にこなしていますが、その原動力がすごい。どうしたらそこまでできるのか。何に打たれてやっているのか。彼の行動力は本当にすさまじく、尊敬するばかりです。

一直線にバーンと物事にぶつかって日常の所作も非常にエネルギーです。食ぶるときも歩くときも、とにかく音がすごい。古民家なのでよい音が響くというのもあると思いますが。

そんなふう生き急いでいるせいか、意外にもよくため息をつくんですよ。「はーっ」って。棚田くんは人に弱みを見せることはまずないし、本人いわく「無意識です」ということなので、もしかしたら呼吸を忘れてるだけかもしれない。「あー、やっと息ができてる」みたいな感じで（笑）。

彼がいてくれて私がいる——棚田くんはそんな存在。

曹裕子

私がここに来るきっかけになったのは、坂田ふみえさんの妹である平井ナナエさんです。その平井さんのオンラインサロンで、棚田くんと知り合いました。

私は昨年から農業にすごく興味があつたんです。無農薬とか発酵食品に関心が高まってきました、元々調理師をやっていましたから、料理は味も大事ですが、やはり健康が一番というとは思っていました。その気持ちがさらに強まってきたという感じですね。

「奇跡のリンゴ」でおなじみのリンゴ農家・木村秋則さんが大好きで、あの方の講演を聞いて

ていると涙があふれるくらい感動するんです。木村さん以外にも多くの農家さんのYouTube動画を見て関心がますます深まっています。棚田くんと知り合いました。

彼と出会ってまず思ったのが、棚田はもちろん、棚田くん自身の美しさでした。情熱、正直、自然との調和といったものを、彼の姿がそのまま表しているんです。私は現在、住み込みで働かせてもらっています。つき合っていくと彼のよさが日々わかっていくんですね。

あなたの夢はなんですかと聞かれたら、私は迷わずこう答えます。「棚田くんの近くに住みたい」って。それを口に出すと、涙が出てくるんです。魂からせり上がってくる熱い感情が、一気に噴き出すような感覚ですね。

棚田くんの存在が、私の心に響くんです。それで今回も来る予定がなかったんですけど、種まきや田植え体験で人が足りないだろうなと思い、私にできることないのかなってというのがあったんですね。時間的には、ちょっと無理すれば行けるかなと。その無理というものも、自分に価値がある経験になる挑戦のようなものです。棚田くんを手伝う労働力になれるのはもちろん、一緒にいることで彼をもっと深く知ることができる。私にはそれが何よりも嬉しいことなのです。

棚田くんに気づかされることは多々あります。日々、背筋がピンと伸びるような感覚ですね。棚田くんは毎朝ネットでライブ配信をしていて、私も欠かさず見えています。大げさで

はなく神様と結ばれるような心持ちになれます。

ライブ配信の様子なんかを、皆さんが面白半分でもノマネすることがあります。それだけ愛されているということなのですが、おもしろいなど微笑みながらも、私は彼の表面的な特微ではなく、彼の心の裏側を見ているんですね。澄み切った川の清らかな流れのような心で、それが本当に素晴らしい。

棚田の活動を15年間もやっているというのもしりませんでした。彼が伝えている内容は本当に大切なものが多いです。家族の団らんや食の健康、日本人に代々引き継がれていくものを本当に大事にしているのです。私たちもそこを大切にしていきたいという気持ちになりますよね。

棚田くんという人間を一言で表すなら、「彼がいてくれて私がいる」という存在です。

私が道はずれたことをしたときに、ぐぐっと修正してくれる。そんな存在、この世の中にそうそういません。ですから、棚田くんにはこのまま変わらずにいてほしいと思います。そして、周りのことなんか気にせずやりたいことを貫き通してほしいですね。

私も彼をずっと見続けていきたいと思っています。まだ出会って2カ月くらいしか経っていないのに、これほど素晴らしい人には今後会えないかもしれないと思える人ですから。

— 子どものころはどんなことが好きだったんですか？
— 一郎さん オセロ、ランプや人生ゲーム、テレビゲームが大好きでした。虫取りなんかはしていません。今では環境活動とかしていますが、昔は虫が大の苦手でした。カブトムシとかもダメで、さわろうものならずと手を洗っていました。
千鶴子さん 遊園地も好きでした。宝塚ファミリーランド、ポートピアランド、ドリーム



特別インタビュー ご両親に伺った 永菅家での棚田くん

— 今日はお暑い中、ご足労いただきまして、ありがとうございます。棚田くんこと永菅裕一さんのご両親にお話を伺えるということで、楽しみにしておりました。早速ですが、簡単に自己紹介をお願いしますでしょうか。

永菅一郎さん（以下・一郎さん） はい、永菅裕一の父の永菅一郎です。昭和28年生まれ。現在68歳です。生まれてから現在までずっと市川町に住んでいて、仕事はサラリーマンをやっております。

永菅千鶴子さん（以下・千鶴子さん） 母の千鶴子です。昭和33年生まれ。市川町の隣の福崎町の出身。専業主婦です。

— よろしくお願ひいたします。おふたりはいつご結婚されたのですか？

千鶴子さん 主人が29歳で、私が24歳のとき

です。市川町の隣にある福崎町から嫁いでまいりました。

一郎さん きっかけはお見合いというか、知人の紹介というか。実は、僕は妻の姉とは同級生だったんですよ。といっても、お見合いするまで面識はありませんでしたが。

— めでたくご結婚後、ほどなくして待望のお子様が生まれたのですか？

千鶴子さん はい。1984年の9月2日に長男の裕一が生まれました。出産はとてもスムーズで安産でした。裕一が生まれたときは、涙が出るほど感動しました。3000グラムないくらいのとても元気な男の子でした。

— 裕一さんのお名前はどのようにして決めたのでしょうか？

一郎さん 名前は姓名判断とか名付けの本を読んで、色々と考えました。余裕とか裕福とか良い意味で使われることの多い「裕」の字と、僕の一郎という名前から「一」を取って「裕一」になりました。妻と2人で相談して、最後は僕が決めたという感じですね。

ランド、近場の遊園地は全部行ききました。ジェットコースターが特にお気に入りでしたね。

—どのような性格だったのでしょうか？

千鶴子さん 几帳面というか、ものすごくきっちりしていましたね。真面目な性格で声や行動もハキハキしている優等生です。だけど、ちょっと堅苦しすぎるかなと。もっとのびのびと、わんぱくでもよかったのには思いました。主人の両親も一緒に住んでいたので、大人たちが手をかけすぎたのかもしれないですね。友達とうまく仲よくなれるのか心配でしたけど、小学校4年生からはじめられるようになってしまいました。

—はじめられていることを知ったとき、どのように思われましたか？

千鶴子さん 本人は学校でひどいことをされた、とか具体的なことは一切言ってこなかったんですよ。でも、ストレスが蓄積していくのは見ていてわかりました。言葉には出さなくても、何度もシャワーを浴びたりと、それまでしなかった行為が増えていましたから。今ならば学校へ行かないという選択肢もありますが、当時は学校に行くのが当然という時代です。なんとか学校へ通わせてあげたくて、私が運転する車で送っていったことは何度もありました。ですが、どうしても教室へ入れなくて戻ってきてしまう。それが続きまして、カウンセリングの先生に相談したのです。そこでアドバイスをもらったのもありまして、あの子は学校へ行かないようになりました。

—学校へ行っていない間、裕一さんはどのような暮らしぶりだったのですか？

千鶴子さん 毎日が夏休みみたいなものです。朝起きたらご飯を食べて、それからゲームセンターやマクドへ行つて。ちよつとストレスがかった夏休みです。

一郎さん たくさん食べて運動しないから、かなり太りましたよ。小さいころの貴乃花みたいにパンパンで。それまではすごく細かったですね。

—学校を休んだのは、4年生の途中から卒業まで。それほど長くなると思いましたか？

千鶴子さん 全然。でも、学校へ行かなくなつて1年経つと、いつまで続くかわからないなとは思っていました。結局、小学校の卒業式も出席していません。

—それが一転、中学の入学式の日には裕一さんは突然、学校へ行くと言い出したんですよね。驚きませんでしたか？

千鶴子さん 驚きましたね。でも、率直な感想としては、本当に行くのかなという感じですね。昔みたいに学校まで行つても戻ってきてしまうかもしれない。それでも「行く」というので、私の運転する車で一緒に中学校へ行きました。そして、あの子も私も入学式に参加したのです。

—2年以上の不登校から中学校へ行くなんて、すごいことですよ。

千鶴子さん すごくいいというよりも、理解に苦しむと言いますか(笑)。常日頃から何を考え

ているかわかりません。私に何か言われても「はいはい」と返事はしますが、そのとおりには絶対動きません。自分のやりたいようにやります。周りの意見をもっと聞けばいいのにな、とは思いますがね。

一郎さん まあ、そこからまさか中学校も高校も皆勤賞になるとは思わなかったですよ。やるのが極端（笑）。

——中学、高校時代の裕一さんのエピソードを教えてください。

千鶴子さん 学校の音楽会へ行ったらあの子が指揮者をしていて、驚いたことがありました。その年代の男の子って恥ずかしがってそういうのやらないじゃないですか。誰かに言われたのか、目立つのが好きなのかはよくわかりませんが。音楽でいえば、小学校1〜3年生まではピアノを習っていました。今も軽くなら弾けると思いますね。

一郎さん 同じ曲ばかり弾いていましたよ。

千鶴子さん 目立つといえ、裕一が高校3年生のとき、同じ高校に2歳下の弟が入学したんですよ。「お前の兄ちゃん、変わってるな」とよく言われたらしくて、それが苦痛だったみたいです（笑）。

——どのあたりが変わってるんですか？

千鶴子さん 文化祭で劇をするとか、みんながあまりやらないことをどんどんやるから、目

立ちまくっていたみたいです。

——今も昔もバイタリティーがありますね。

千鶴子さん プラスの意味で捉えてくれる人ばかりだといいいのですが、変わり者と見る人もすごく多かったですね。とにかく目立つ子でしたから。

——そんな裕一さんが高校生で環境に目覚め、後に棚田の保全を人生のテーマにします。それを聞いたときは、どう思いましたか？

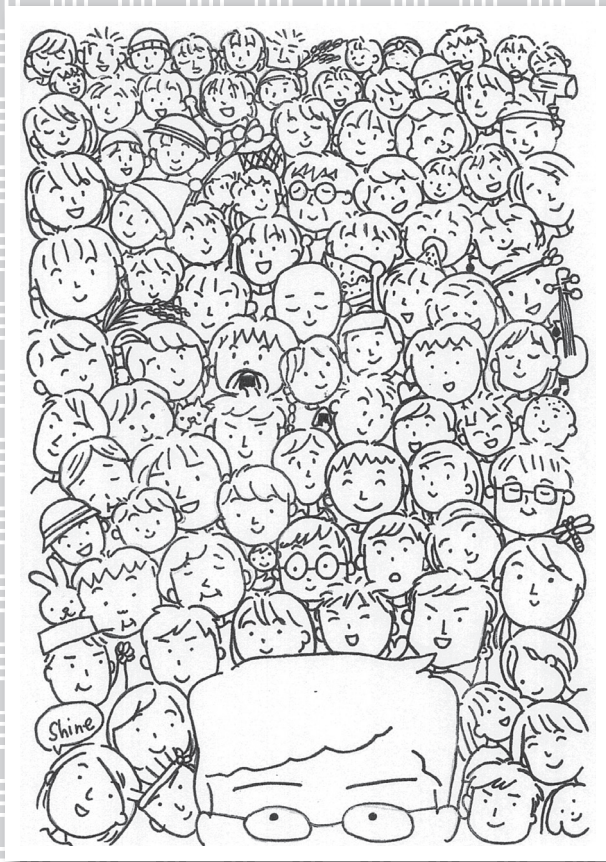
千鶴子さん 私も農家の出身ですから、そんな大変なことをしないで、とは思いますが。特に棚田は人出や手間が人一倍必要なのに収穫が少ないのは目に見えているわけですから。難儀な道を選んだなとは思いますが、何も言いません。言ってもやめるなら、もつと前から言っています（笑）。

——裕一さんのその性格は、どなたに似たと思いますか？ ご両親というより、おじいさん、おばあさんでしょうか？

千鶴子さん どうでしょうかね。祖父母はあの子をすごく可愛がっていたので、人格形成に影響を及ぼしたとは思いますが。

——裕一さんは昔から棚田などに興味があったのでしょうか？

千鶴子さん いえ、小さいころは全く関心がなかったと思いますよ。私の実家も田んぼがあ



第6章

応援メッセージ

りますけど、見に行きたいということもありませんでした。当時はもう機械でなんでもやる時代でしたから、子どもがお手伝いをする機会もありません。

——最後になりますが、裕一さんに伝えたいことはありますか？

千鶴子さん あまりにも自分のやりたいことに突っ走りすぎているので、たまには立ち止まって、前だけではなく横や後ろも見えてほしいなど。猪突猛進という間こえはいいですが、イノシシが走ったあとみたいにならしてしまうのではなく、周りも整地しながら進んでいてほしいと思いますね。

棚田を心から愛する気持ちは本物。思わず応援したくなる一生懸命さと、熱いハートが魅力的な棚田くん。彼の著書を通して、日本の宝・棚田を知る人たちが増えていくことを楽しみにしています。

浅井智子(自然育児 森のわらべ多治見園 園長)

棚田一筋の人。棚田を永遠の恋人として保全を目指してほしい。

中島峰広(早稲田大学名誉教授)

永菅くんは学生時代から棚田ネットの活動に参加してくれていたのですが、卒業後も、まさか就職もしないで自らNPOを立ち上げ、棚田保全に邁進するとは。わたしたちメンバーもとても驚きました！ これからも一緒にがんばりましょう。

高桑智雄(認定NPO法人棚田ネットワーク事務局長)

永菅さん(棚田くん)とは兵庫県立大学のシンポジウムで私に棚田の話をしてほしいというご縁で出会いました。その後も、段々学習会という企画を練ってください、姫路まで出かけて、棚田の現状や海外の先進事例を話させていただきました。農村地域では過疎化・高齢化が進行しており、この状況を打破すべく、広く都市住民に呼びかけ、棚田での田植、稲刈り

等の体験を通じて棚田や農村の現状に対する理解者を増やし世論を高める努力を続けている永菅さんを心から尊敬します。メディアにも過去165回以上登場され、今回活動15年目を迎え、本を出されるということは並々ならぬ多様な活動をエネルギーに継続してこれらた成果です。心から応援しています。本当におめでとう。

津川兵衛(神戸大学名誉教授)

「棚田だけ見ているは、棚田は守れない」という至言がある。棚田くんが棚田での米作りから地域の活性化まで、多様な視点で棚田保全活動を続けていることには敬服の他ない。棚田で遊ぼう！ 棚田で学ぼう！ の活動理念も素晴らしい。心から応援しています。

安井一臣(棚田学会)

永菅さんは、私の知る限り日本の棚田保全団体の中で一番若い理事長です。現在、多くの地区の棚田保全の担い手はシニアの方です。若い永菅さんは棚田保全の希望の星です。当協会は永菅さんと一緒に、日本全体の棚田保全に貢献していきたいと考えています。

中里良一(一般財団法人日本グラウンドワーク協会理事長)

棚田くん襲名15周年記念おめでとうございます。こちらは、日本初のG I A H S襲名地佐渡の棚田爺です（笑）。棚田くんに初めてお会いしたのは、いつだったかと考えるくらい前ですね。超個人的な青年で！ この人きつと棚田に新しい風吹かせてくれると思っただのが第一印象でした！ 沢山の汗と涙が実を結びおめでとう。佐渡棚田爺も見習います！

大石惣一郎（佐渡棚田協議会会長）

棚田での15年の活動には目を見張るものがあります。お米を育て始めた年は猪に全滅させられた経験もあるなか、それらを乗り越え、継続している姿は尊敬します。そして、集落外の人たちも虫送りなど地域の行事に参加して交流することで村をより盛り上げてくれています。そのことが地域の担い手を増やすことに確実につながっています。その想いをつなげて、未来の子どもたちのために活動することを心から応援しています。福岡孝義さん（地域住民）

自分たちの棚田で米育てをしたい、その米育てを学べ、そして子供たちとも一緒に米育てができる方を探しているときに、清里フォーラムで紹介いただいたのが、棚田くんとの出会いになります。棚田での米育てを通じて、様々な方々との出会いに恵まれましたが、その結びの役を担ってくださった棚田くんには感謝しております。自分の信念をもって様々な壁も

突破して突き進んでいる姿を、応援しております。

千葉裕樹（類塾）

人よし、空気よし、棚田よし。ときには遊びや体験の場にもなり、命のリレーを感じる偉大な田んぼ。その魅力に家族みんながメロメロです。これも棚田くんの熱心な人柄がなせる業。これからも全力でエールを送ります!!

山本真平・ひとみ

おいしいおこめがたくさんとれたよ。いっぱいおかわりしたよ。たうえのとき、どろがあしにすいついてきたよ。さわがに、いもり、おたまじゃくし、あめんぼ、みずすまし、いっぱいいなまえをおぼえたよ。たなだにいくのがたのしいよ。たなだくん、いっぱいあそんでくれて、ありがとう。だいすきだよ。

やまもとあいこ・わか

棚田さんとは、自然体験イベントではじめてお会いし、そこから早いものであったという間の2年が過ぎました。棚田の自然に元気をもらい、家族で参加するなかでコロナウィルスが来ようとも気分転換のできる場所と繋がることのできたため有意義な日々を過ごしています。棚田さんは、とても棚田への思いを熱く語って下さり応援したくなる存在です。私もその思いに強く共感できるところです。娘も「古民家しろめて」へ行かせていただいで

から、今は農家になることを夢に、勉強に勤しんでいます。これからも応援しているので頑張ってください。

坂本(ファン)

棚田くんとはお米作りをきっかけに出会いました。無農薬のお米の作り方を種まきから収穫までを教えてもらっています！ とにかく、棚田くんはパワフルで、日々棚田を守り、そしていつも誰かのためにと行動しています。熱く一生懸命動ける棚田くんを尊敬し、応援しています。

浅田文香

棚田くんこと永菅さん、棚田を守りたい、その想いをまっすぐ一筋に実践し続ける姿勢がまぶしくうらやましいです。人生をかけて取り組む、それを実行している人です。応援したいので、僕も時々手伝っています。これからも頑張ってください。無理しすぎないように。

小寺英一郎

私が初めてお会いしたのは、11、12年くらい前のことでしょうか。ひよろつとしたあんちゃん、田畑がシカに荒らされて困っているがそんなことに負けていられない、といって懸命に活動されている、凄いな、と思いつつも、正直続けられるのかな……とも思っていました

が15年！ 比較は難しいですが、会社でも15年続くのは20%や10%程度と言われているのに立派に続けられている。もちろん、さまざまな支援者がいらっしやっつてのことでしょうが、強烈な想いと行動が、現在に至る原動力になっているのでしょう。これまで本当におつかれさまでした、そしておめでとうございます。善いことをしているなら、続けなければならぬ、というのは私も思うところですがこれからもさらなる飛躍、ご活躍をお祈りいたしております。

東 展生(ファームエイジ株式会社)

永菅さんとは、私が10年前にNPOを立ち上げる前からの付き合いになります。猪突猛進なところはありますが、昔からぶれない思いは、さすがだと思います。年下ですが、見習うところもたくさんあり、応援しています。

NPO法人農楽マッチ勉強会 理事長 山本文則(中小企業診断士)

13年前、棚田くんの棚田保全への熱い想いに大いに触発されて、棚田くんが企画した田植え体験に当時5歳の娘を連れて参加しました。その娘ももう高3。棚田くんの長期間にわたる活動を、娘の成長を通して実感、敬意を表します。これからも頑張ってください！

鳴海一真(兵庫県神戸市)

出合いは2012年の授賞式。地域のために活動するのは高齢女性が多いのですが、日焼けした若者の受賞は目を引きました。食育で連携したり、NPOとしての活動を応援し合う、つかず離れずの関係を続けています。SDGsが社会の課題となり、棚田LOVERSの時代を先駆けた活動も市民権を得ました。地産地消を進めるためにも美しい棚田を是非残して欲しいと心から希望しています。

大森節子(NPO法人C・キッズ・ネットワーク)

永菅さんとの出合いは印象的でした。12、13年前のことです。彼は長い髪で、長く伸びた爪の中に、泥が沢山詰まっております、その手でものごいスピードでパソコンを叩いていました。行動的で、思いついたことをすぐに形にする人です。彼は良い意味で、非常に変わっている人です(笑)。

Bahram Enanloo (NPO法人Peace & Nature 代表理事)

棚田くんとは市川町の人材を育成するという目的の講座で一緒し、美しい棚田を守り、未来に繋いで行く! という強い信念に共感し微力ながら応援させていただいています。また私が父から受け継いだ田も大豆畑として活用して下さっています。15年間、ブレることなく活動を続けて来られた棚田くん。これからも色々な方とご縁を繋いで進化されることでしょ

う。楽しみにしています。

佐藤直緒子(主婦)

「あと5年で棚田がなくなる!」っていう文字と美しい棚田が写ったチラシを見たとき、すごく胸が苦しくなったのを覚えています。都会に住んでいる私にできることあるかな? 棚田くんが棚田を守るためにいろんな活動をしていることを知って、家族でイベントに参加すること、いろんな人に棚田を知ってもらおうことで棚田を支えようと思いました。これからも自分のできる範囲で楽しく応援していきたいと思っています。棚田くんも楽しんでくださいね〜!

植田あや子

棚田くんとはあるワークショップでお会いしたのが初めてです。まだ直接お会いしたことがないので、その頃始めたばかりのレンタル畑のことで、親身になってアドバイスしてくださいました。大切な大豆も分けていただき、お陰様で初心者の方も無農薬の美味しい大豆を収穫できました! お名前の通り、棚田を愛して、守り、仲間を増やしていかれている情熱にいつも感動を頂いています。全国、世界に、棚田の美しさ、素晴らしさが伝わるように、ますますのご活躍を心より応援しています!

新妻千枝

棚田くんの行動力、有言実行、不言も実行の志の高さにいつも刺激を受け、励みにさせて頂いています。野菜作りの講座では畑作りの基本のキと、住宅事情によりベランダのプランター栽培の私にも丁寧な野菜の植え付け、育て方から種取りまで指導して頂きました。棚田、畑、多くの人の縁を大切にされる場、棚田くんの活動を挙げれば書ききれないほどですが、どれも根底には生命、自然、人と人との縁、生かされていることへの感謝と感動があるのだと感じます。これからも応援しています！

大倉摩矢子（舞踏家・ヨガインストラクター）

棚田LOVERS様の税務支援を東京よりさせて頂いております。都会の雑踏の中に毎日おりますと、美しい棚田を眺めるだけでも疲れが軽減されるように思います。日本を代表する、この美しい風景や美味しいお米を守る活動に少しでも貢献できるように遠く東京から応援しております！

安居謙太郎（安居謙太郎税理士事務所）

棚田LOVERS様の税務支援のサポートをしております。美味しいお米を守る活動や、景観・地域保全の活動の支援ができますよう、東京の地からとはなりますが、応援しております！

大江裕規（安居謙太郎税理士事務所）

棚田くんのところで、1ヵ月間、研修でお世話になりました、ありがとうございます。近くで見ている、棚田くんがリアルに命を懸けて、本の出版をされている姿がとても印象的で、私にはできないので、すごいなと思いました。棚田くん、命がけで大変な時期にもかかわらず、私を1ヵ月間、滞在させてくれて本当にありがとうございます。感謝しています。楽しい時間をありがとうございました

谷口葵（あおちゃん）

市川町の美しい自然、棚田などを通して、遅く生きる知恵と楽しさを子供から大人に体験を通して伝える棚田くん。情熱的に挑戦し続ける姿勢には、誰もが惹きつけられる魅力があります。これからの活躍も応援しています！

SpiceSpiceAyami（スパイス料理教室）

永菅さんと出会って8年。あの頃からは素晴らしく自立し、成長した棚田LOVERSに！色々な方々、組織や団体と協働、いつも実直に関わりを持ちながら進み、今では全国の認知へ。しかしながら危惧すること。今まで関わってきた方々にもう一度コミュニケーションをとっていかれることを願っております。今現在のご自身のポジションは、真っ直ぐに取り組む真摯な永菅さんの姿に感銘を受け支援してくれた皆様方のお陰であり、賜物だという

検索したことがきっかけでした。そこから、棚田くんの朝のライブ配信の録画を観ることに！そこでの、「シャシャシャシャイニーン♪シャシャシャシャイニーン♪」を歌う棚田くんのドアップが…!! その音律とドアップの棚田くんの超個人的な魅力に、ドはまり☆ 次の瞬間には「シャシャシャシャイニーン♪」と口ずさみながら笑顔の自分になっていました☆ すぐに棚田くんに予約の連絡をして、2泊することになりました♪ 住み込みボランティアされていた史江さんとも意気投合し、一瞬で「古民家しろめて」と「棚田くん」の世界に引き込まれてしまいました。誰をも味方にし、相手の人生を引き込み、そして巻き込み、相手を決して軽んじない、『不軽菩薩』である彼に最大のエールを送り、そして私も微力ながら全力でサポートしていきたくと思っています。地球環境、世界平和、人生の幸福、食からすべての人間革命が始まるという『食養』の世界観から、『ゼロ円生活普及の会』なるものを立ち上げ、その実践道場として古民家再生をはじめ、自給自足を目指す運動をしています。彼の今後に期待し、この度の著書出版についても楽しみにしています！

村田利治（ゼロ円生活普及の会代表）

お米を育てる体験をきっかけに棚田LOVER's FESに共感して、心から協力しています。約20年前に棚田オーナーとして、大屋町に3年近く通い、現状での暮らしを通じて、牛

乳でも夏場と冬場の味が違うということも実感しました。そして、子どものニコツとした笑顔に感激させられました。将来は虐待された子どもたちを田んぼに連れていきたくいと熱く想っています。棚田くんのご縁でもそんな人たちに出会いましたが、これからもご縁を深め広げていきたい。背中でお手本を見ながら、子どもの未来に感動を与えてほしいと感じます。心から応援しています。

寺尾哲司

棚田くんのお付き合いは、「古民家しろめて」の立ち上げに参加したのがきっかけです。セミナーでは参加された方々に棚田への想い、先人が手で一つ一つ積み上げた石積みなどを熱く語る棚田くん。この素晴らしい棚田を守り、後世に伝え残したい想いは日本一、いや世界一です。応援しています。

片山浩美

縁あってさせて頂いた屋根工事の仕事から、長いお付き合いをさせて頂くことになりました。自分のやりたいこと、やるべき事、目標を見つけて一直線に頑張っておられる姿には感動すら覚えます。これからも頑張ってください。

土山義弘(旬土山商店)

棚田くん、出版おめでとう！棚田くんは3回も僕に会いに来てくれた、周囲に笑顔を生み

出す、愛され上手な田んぼのヒーローや。これからお爺ちゃんお婆ちゃんに声かけて仲間もどんどん益々増やして伝承継承、地域一丸、ついでに日本に人情も奪還してかかろな。また愛に来いよお！

丸尾孝俊(バリの兄貴)

私が楽読神戸スクールへお話会のために行った時に棚田くんが聞きにきてくれていて、出会いました。棚田くんの真っ直ぐなパワーに押されて棚田くんの活動を見に行きました。素晴らしい場所に古民家を構えて、棚田をしている姿は日本の未来の希望でした。この年齢の方が、真剣に棚田のことに取り組まれている。応援するしかないですね。日本の未来のことを考えたらわかること。棚田くんの活動にはいつも感謝しています。ありがとう。

平井ナナエ(楽読創業者)

日本の美しい原風景である棚田を、未来の子供たちに残すために自分の人生を捧げている棚田くん活動を多くの方が知って頂き、応援して頂くことで、日本人にとって、なくてはならない大切なものが後世に引き継がれて行くと思います。自然と共存して生きてきたご先祖様たちの思いを引き継いでいる棚田くんを僕は応援しています。

ヨンソ(OWS TV)

棚田を愛し、棚田を多くの人たちに知ってもらうことに全力を注いでいる棚田愛の強い男、棚田くん。ずっとブレない姿勢に、多くの人が巻き込まれ、応援したくなってしまおう不思議な棚田くんに、これからも頑張ってほしいと思います！

矮松義弘(楽読神戸スクール)

棚田くんのエネルギーは、一体どこから湧いてくるのかとビックリするぐらい活動的で、いつも見ていて面白いです。熱い想いを持ち、古き良き日本の伝統を守ろうとする姿は、これから私たちが、何を大切にしていきたいのか？ それを問われているように感じます。熱心な活動をいつも応援しています。

丸山由希子(楽読神戸スクール)

棚田くんは日本に豊かな暮らしをもたらすために、未来への橋渡しをしてきている人だと思えます。農業にとって過酷な一面もある自然とも共存し、真摯に向き合う姿には心を打たれます。ひたむきな情熱と行動力の裏には棚田を守るという確固たる使命を感じます。尊敬、感謝の念とともに応援しています！

前田由香(楽読インストラクター)

棚田くんの周りには、いつも彼の想いに感銘を受けたたくさんの方が集まっています。彼には人を惹きつける不思議なエネルギーが溢れています。私も、そんな彼に引き寄せられたひ

とりです。棚田くんの熱い夢、仲間としてこれからも応援し続けていきたいと思っています。

高橋ゆか（楽読神戸スクール インストラクター）

棚田くんとは「楽読」とのご縁で知り合いました。棚田LOVER's FESにも参加させていただいたのですが、この人は何者？ とちよっと不思議でした。しかし、その疑問はすぐに解消されました。棚田と人に対する情熱が溢れ、その情熱と行動力に人が集まるんだと納得しました。棚田を通して人のご縁を繋ぐ人！ これからもシャイニングー！ 応援しています♪

中崎典子（楽読神戸スクール）

棚田くんはいきなり現れたとっても個性的な人。掴みどころがない不思議な人という印象が大きく変わったのは今年の棚田LOVER's FESです。500名規模のフェスを一人で取り仕切る姿に頼もしさを感じたと同時に、もっと広がるはず。そう感じました。棚田くんが感じていること、描いていること。仲間をサポートしながら広めていきたいなと思っています。

秀平美保子（楽読インストラクター・みほ姉）

若い世代の棚田君の「棚田を残したい」という熱意と、いつもひたすら前を見て進む姿にい

つも感動しています。先人が残してくれた叡智を受け継ぎ、それをまた次の世代に伝えていくという棚田くんの活動をこれからも応援していきたいです。

下原佳子（触れ愛療法セラピスト）

棚田くんのご縁は5年前。あの頃よりはるかに成長を感じさせる棚田くんの行動力の凄まじさに度肝をぬかされました。美しい棚田を未来の子供たちに残したい15年も続く想いは、まさに本物。これからも応援させていただきます。

上郡邦子（棚田♡フェス実行委員）

いつでも未来を見ている人。棚田くんを初めて知ったときから、その印象は変わりません。祖先が大切に守り続けてきた棚田や自然をちゃんと美しいままで未来の子供たちに！ と頑張る姿に感銘を受けました。これからもシャイニングの気持ちでいきましょう！

一ノ瀬隼人（ライター）

棚田くんを知ったのは今年の今頃です。そこから棚田くんの凄さをどんどん知っていききました。朝7時半には元気にLive配信されていてシャイニングしています。朝から元気をもられます。10月23、24日の棚田LOVER's FESに1000人集める行動。暑い中での畑

田んぼ作業。その姿を見て、いろんな方が集まっている様子を肌で感じています。棚田くんの棚田への純粋な想いがいろんな人を繋げているんだと思います。そんな棚田くんを陰ながら応援しています。

長内順子(ミクマリの里・ポテちゃん)

知人の紹介で初めて「棚田」という存在を知りました。自分自身、今まで人生をかけて何かに熱中したことがないので、棚田くんの情熱が羨ましく感じました。「棚田を守る」と一言で言うのは簡単ですが、今までの努力があつてこそ今の今だと思えます。棚田くんの発信力と人を巻き込む力には頭が下がる思いです。棚田くんのパワーをみんなにー！

三宅俊昌(株式会社ハヤシコーポレーション東京支社長)

永菅さんは、私が主催する作家セミナーにも八ヶ岳の合宿にも何回も参加され、文章の技術を磨き、ついに本を出されたとのこと、本当におめでとうございます。永菅さんたちは古民家や棚田が大好きな人たちが集まり、一番得意なことを紹介しあい、ワクワクに満ちあふれています。私とのご縁で繋がった仲間も現地に出かけたり応援されたりしています。この活動が、きっとよくなる未来を作りあげていくと強く確信しています！心から応援しています。

本田鍵(作家)

棚田くんは、情熱と行動の男です。そして、お茶目で気さくな人柄。不可能と思われることに悩みながらも果敢にチャレンジしていく姿に、たくさんの応援が集まるのだと感じます。私も棚田くんが育てている棚田に伺いました。先人たちの苦労と英知が詰まった美しく荘厳な棚田を、私も後世に残したいです。棚田くんの活動を心から応援しています。

加納敏彦(お金の専門家・コーチ)

棚田くんとは、セミナーで出会いました。最初は、「さかなクン」と同じ感じで、「棚田くん」というニックネームで呼んで下さいと言われてました。棚田くんは、パワーがすごいと思いました。ものすごいパワーの持ち主です。あのパワーがあれば、きっと、棚田を未来に残してくれると思います。応援しています。

きぬちゃん

棚田くんが主催する棚田LOVER's FESに度々出演させてもらっていますが、初めて市川を訪れた時、自然の美しさ、山の神々しさ、棚田の美しさに圧倒されました。「棚田を守りたい！」と、熱意を持って活動を続ける棚田くんの活動が本になり、日本中知ってもらえることはとても楽しみです。応援しています。

山本美沙子(華舞師)

祖先の作り上げた大切な柵田を、未来の子どもたちへと伝え、残していきたい。言葉で言うのは簡単だけれど、実行していくのは、並大抵ではないはず。それを、新しいアイデアを出しては、次々と行動に移していく柵田くん。市川町の柵田を守るだけじゃなく、活動を通して人と人、そして人と自然を繋いでいる彼の姿に、こちらの方が勇気ももらっています。柵田くん、頑張っつね。これからも応援しています！

dakarann (シンガーソングライター)

情熱の人。それが柵田くんです。彼の情熱とは「美しい柵田を将来に残す」こと。本物の情熱には、行動が伴います。本物の情熱には、みんなが笑顔で巻き込まれていきます。柵田くんは情熱をエンジンに、世界を変えていくでしょう。ボクも巻き込まれて、応援し続けます！

山口拓朗 (文章の専門家)

柵田くんは、初めてお会いした時から、情熱が溢れている方だと思っていました。特に、ここ最近の行動力は、すごいことになっていて、迷いなく使命を全うしている姿がとつても、とつても素晴らしいなと思っています。微力ながら応援していきたいなと思っています。白鳥 リサ (チクティビティインストラクター) (ダイエット×セルフケア×メンタルアップサポート)

柵田という宝を未来に残していくために熱い想いで活動している柵田くん。「大人が笑顔で夢を語れる世界」を目指す僕の想いともリンクして、大好きです！ 応援しています！

松尾英和 (メンタルコーチ)

先人が、一つ一つ石を積み上げ、気が遠くなるような労力をかけて守ってきた柵田を後世に残したい。そう熱く語る柵田くんは、私には『柵田の精』のように見えました。柵田の自然に触れて、輝く笑顔になる人を増やしたいと願う柵田くんの想いと活動、応援しています。

まつむら ゆうこ (主婦作家)

柵田くんは「優しくて情熱の夢を叶える男」。柵田くんは「歴史を見て愛の想いと世代をつなぐ男」。柵田くんは「世界を見て場を感じ未来につなぐ男」。柵田くんの自分応援ソングを創る中で、柵田に対する熱い想いに触れ、ますます柵田くんを応援したくなりました。

まつもと さいこ (歌うセルフケアメンタリスト)

柵田をこよなく愛する柵田くんとは、コミュニティで一緒にさせていただきました。ご自

分の棚田にかける熱い想いを語られ、それを実行されるバイタリティー！ 棚田の美しさは、以前から知っていました。それを次世代にまで残す活動をされています。また、人間が生きていく上で一番大切な食に注目し、安心安全な有機農業をされています。本当に素晴らしい棚田くん！ ありがとうございます。応援しています。

笑顔の日本語講師・大山理恵 (Greentea)

棚田愛に満ち溢れている棚田くん。私も実際に、棚田くんが愛とエネルギーを注ぐ棚田を目の前で拝見させていただき、後世に棚田をのこしていこう、そのためにいつも100%粉骨砕身しているパワー溢れる素晴らしい方だと感じます。夫婦で応援しています。

畑迫良恵 (ブライダルメンタリストYOSHIE)

オンラインで朝、棚田くんのパーソナルトレーニングをしている福岡在住のえっちゃんです。棚田くんの素晴らしいところは博多っ子の心にも美しい日本の原風景棚田を甦らせてくれたこと。実際にリアル体験を求めてお伺するつもりです。棚田Loveは半端ないです(笑)。オンラインで繋がったご縁に感謝します

えっちゃん(専属トレーナー)

棚田くんとは、私の運営するカレー屋に私の知人と一緒に来店して頂いたのが、きっかけで知り合いました。棚田を未来に残していきたい、棚田の素晴らしさを伝えたい思いに私の心も動かされ、棚田くんに協力したいと思いました。私自身も店舗運営していますので、タイミングが合えば、みたいな感じですが、棚田くんのブレない目標設定に自分自身も力をもらっています！ 棚田くん！ もっと楽しめ！

藤野哲也(カレー専門店富士乃屋代表)

棚田くんとはオンラインで知り合い、まだリアルでお会いしたことはありません。しかし、オンラインでもご自分たちの活動を語るとき、すごい熱量で輝いています。棚田にかける想い、人を笑顔にしたいという想い。その活動を応援します。

たけなかちか

本当に棚田が大好きで、その昔からの美しさを守り、次世代に繋いでゆくそんな姿がカッコいい！ こんなに『好き』を純粹に表現できる棚田くんのことをずっと応援しています。

筒井正浩(アニキ)

「美しい棚田を後世に残したい」。そんな棚田くんの志こそ美しいと感じます。決して簡単ではないであろうその志に、愛と感謝をもって日々真っ直ぐに向かう棚田くんを、心から尊敬

します。応援しています。

稲垣あずさ

棚田くんとはまだオンラインでしか会ったことがありませんが、ものすごく熱い棚田愛をお持ちの方だということは知っています。輝く個性で自然と伝統文化を守り、素敵な人たちに囲まれ、豊かな人生を送る姿を東京から眩しく眺めています。これからもシャイニングし続けてください。応援しています。

佐藤一樹(中小企業診断士)

自分が棚田くんを知ったのは去年の「えん農フェス」の流れで棚田LOVERS FESを知ったことです。自分もコロナがきっかけで農に興味を持ち、棚田くんが今まで続けてきた活動の凄さに圧倒されました。この人は本当に本気で棚田を未来の子どもに繋いでいこうとしているんだとどんな問題が起ころうとその信念は絶対に曲がらないんだと、その強さを感じました。自分もそんな棚田くんの姿をSNSで見ながら勇気もらっています。棚田くん、応援しています。これからも「シャイニング」して下さい。

大桑心(縄文好き)

日本の昔からある風景、棚田は、私たちの心の故郷です。その棚田に自分の人生をゆだね、共に自然と生きている棚田くん。今までの活動や思い出が、年内には一冊の本になります。

人生という経験を楽しんでいる棚田くんのお話が楽しみです。

辻本宜子(豆と雑穀、野菜のコーディネーター)

棚田くんの棚田への想いにいつも心揺さぶられ、勇気もらっています。棚田は日本の宝、日本の心だと思います。美しい棚田とその文化を守る棚田くんを応援しています！

伊藤結子(勝手にロンドン大使ゆいちゃん)

一人で棚田営農者に「棚田を守りたい！」と進言。純朴でナチュラルでパワフルなスーパーマン棚田くんの動画に引き込まれた。一途なパワーは何？ 周りを取り込むエネルギーにあやかろうと「応援ボタン」をクリック。がんばれ！ 棚田くん。

鈴木祐一

棚田くんとは本田健さんのコミュニティ繋がりがご縁でした。私自身、棚田農法は耳にしたことはありますが詳しく触れたこともありませんでした。それがお会いする度に数々の熱い想いをお聞きして棚田の素晴らしさと奥深さを知り、魅せられていきました。大切なこととわかっていてもなかなかリーダーシップをとって動いていくことは簡単なことではないと思います。それを学生時代に覚悟を決めて、もう15年間生きてきたと聞いて、本当に頭がさが

る想いでした。私自身の仕事が、人間のエネルギーを高めるコーチング”ですので、自然と人との「共栄共存」を盛り上げていけたら幸いです。益々のシャイニング活動を心より応援しています。

三上隆之(ライフエネルギーコーチ創始者)

おむすびとレジンで笑顔を届けるtomatoです。豪雨災害があるたび、棚田や森など自然があれば被害を最小限に防げるのにと感じてます。先頭を切って活動されてる棚田さん。全国の皆さんに知って頂くため応援してます。

tomato

ひたむきに頑張っている彼の姿にはいつも元気をもらえます。棚田くんの周りにはいつもできてきなご縁が溢れています。応援しています。

篠倉あみ

東経135度の神戸市西区で「ミクマリの里」を仲間と創っている伝動詩人えいたです。棚田くんを知ったのは、「お母さんの幸せが世界平和の根源」をコンセプトに国内外で開催しているバースカフェの認定ガイドが、棚田くんのイベントでバースカフェを実施したことから、そのご縁が繋がりました。そして、楽読のナナちゃん、ヨンちゃんが声をかけてくれて、

農業と古民家再生についての動画配信で一緒に出演しました。個人的に僕が感じているのは「棚田や野菜という命を本気で守りたい」という情熱は、離婚をした時の辛さ、命をお返ししたときの後悔、生きていることを止めたくなるほどの苦しかった経験があつてこそじゃないかと。この時代、多くの人が生きていることに疲れたり、自分を見失いそうになる時だからこそ、自然と共に生きる「在り方」を取り戻そうとする棚田くんの日々の実践を応援しています！

伝動詩人えいた(「ミクマリの里」/バースカフェ代表)

棚田くんと初めて会ったときから、棚田への愛は溢れていました。また想いだけでなく、行動にうつし15年にわたる計画を実行されています。きっと成功ばかりの道のりではなかったはずですが、一つ一つ丁寧に積み重ねてこられ、今日に至るお話はこれからの時代を生きる私たちの叡智になると感じています。その真剣な想いと、真っ直ぐな人柄に、応援者が集まり、今後さらに飛躍される活動にも目が離せません。これからの時代の先頭を走る棚田くんの活動を心から応援しています。

さーや

15年の実績は素晴らしいです！ そば打ちも取り組まれる姿勢も応援しています！

山下義宣